

事務事業及び予算の執行実績

(令和3年度「一部、令和4年度分を含む」)

静岡県立伊豆の国特別支援学校

目次

事務事業の概要（本校）	・ ・ ・ ・ 1
（伊豆下田分校）	・ ・ ・ ・ 14
（伊豆松崎分校）	・ ・ ・ ・ 23
事務執行の根拠法令調	・ ・ ・ ・ 33
学校施設の概要	・ ・ ・ ・ 34
在籍生徒調	・ ・ ・ ・ 38
入学志願者及び入学者数調	・ ・ ・ ・ 41
卒業生の動向調	・ ・ ・ ・ 43
生徒の状況	・ ・ ・ ・ 46
保管現金有高調	・ ・ ・ ・ 50
預金調	・ ・ ・ ・ 51
郵券等受払調	・ ・ ・ ・ 52
材料品受払調	・ ・ ・ ・ 53
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	・ ・ ・ ・ 54
委託料に関する調	・ ・ ・ ・ 56
補助金支出調	・ ・ ・ ・ 60
負担金支出調	・ ・ ・ ・ 61
土木工事調	・ ・ ・ ・ 63
建築工事調	・ ・ ・ ・ 65
公有財産調	・ ・ ・ ・ 67
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	・ ・ ・ ・ 69
行政財産貸付・使用許可調	・ ・ ・ ・ 70
主要備品調	・ ・ ・ ・ 71
生産物受払調	・ ・ ・ ・ 72
職員調	・ ・ ・ ・ 83
職員の年齢調	・ ・ ・ ・ 89
健康管理	・ ・ ・ ・ 90

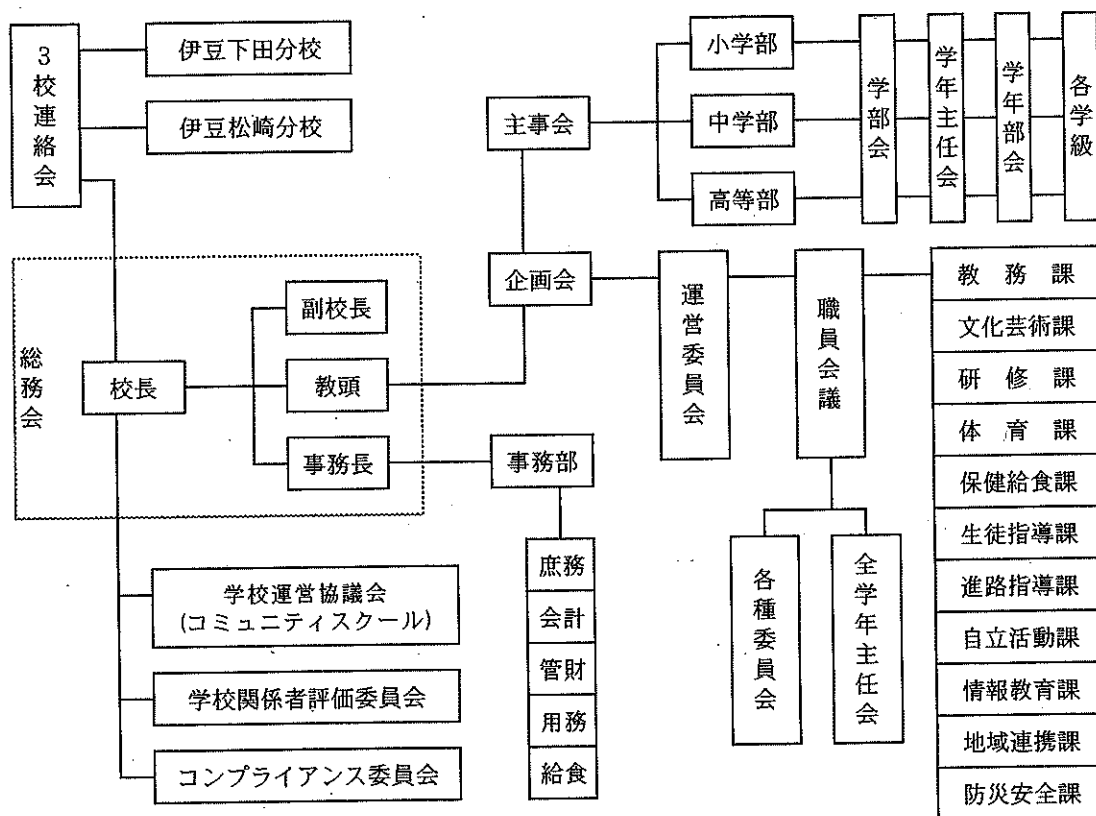
事務事業の概要（本校）

1 概要

(1) 学校の沿革

- | | |
|----------|--|
| 平成 29. 9 | 三島田方地区特別支援学校（仮称）の敷地を旧東部特別支援学校跡地にすることを決定し教育委員会定例会に報告 |
| 30. 10 | 「三島田方地区特別支援学校（仮称）」建設工事着手 |
| 令和 2. 3 | 県議会2月定例会において県立学校設置条例改正案が議決
校名が「静岡県立伊豆の国特別支援学校」に決定 |
| 2. 4 | 沼津特別支援学校内に「伊豆の国特別支援学校設置準備委員会」を設置 |
| 3. 2 | 校舎建設工事完了 |
| 3. 4 | 静岡県立伊豆の国特別支援学校開校 |

(2) 組織図



各種委員会		
・ 学校評価委員会	・ 研修推進委員会	・ 情報管理委員会
・ 教育課程検討委員会	・ 学校保健委員会	・ スクールバス委員会
・ 教育課程編成委員会	・ 医療的ケア委員会	・ 施設開放委員会
・ 校内就学支援委員会	・ 職員安全衛生委員会	・ アレルギー疾患対応委員会
・ 校内支援委員会	・ 入学者選考委員会	・ 防災危機管理委員会
・ 人権教育(いじめ対策)委員会	・ 職員交通安全委員会	・ 校歌制作委員会
◎カリキュラム・マネジメント委員会 ◎つなぐ つながる プロジェクト		

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きたる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）人を目指す

(2) 目標具現化の柱

- ア【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等（重点目標はゴシック体で記載）

【令和3年度】
 <安全・安心>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
新設校舎で児童生徒が安心して生活できる学習環境の整備や危機管理体制を構築する	新設校の特徴や地域性を踏まえた訓練やマニュアル作成等の体制作りを実施 実施できた教員98%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新校での基本的な防災体制とマニュアルができた ・訓練を重ねて役割分担等の実質的な見直しや、防災物品の整備等に取り組む ・コロナ禍で実施できなかった地域との連携を構築する
	避難時の約束「オアシス」を統一し、安全教育を実施 実施できた教員100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練では、「オアシス」を共有し落ち着いて取り組むことができた ・自分で身を守る意識の向上にむけて防災教育の工夫や系統的な計画を検討する
	KYミーティングを年3回実施し、ファイルを作成した 対応できた教員96%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・KYミーティングを通して、危険予知と回避に向けた意識作りができた ・継続的实施と、ヒヤリハット事例の迅速かつ効率的な情報共有の方法を検討する
	毎月の安全点検を実施。可能な範囲で、対応や改善をした 実施できた教員97%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・点検後に事務と連携して危険箇所等の改善できた ・事故防止や安全意識を持つことができた(事故0件) ・点検後の対応の周知共有、事故を未然に防ぐ工夫を検討する
児童生徒一人一人の人権が尊重され、いきいきと活躍できる教育活動を実施する	毎月人権自己チェックと、全体や学部で人権研修やミニ講座を実施した	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックや研修、人権だより等での啓発を繰り返し行うことで、人権を大切に指導することができた ・今後もあいさつや適切な接し方を実行する ・今後も継続的に取り組みを続け、具体例やよい指導の紹介、チェック後の指導や助言などの工夫を検討する
	毎月、人権自己チェックを実施した。定着のため、後期からチェックのための時間を設定した 実施できた教員97%	A	

	学年や学部で、一人一人にあったコミュニケーション方法の検討や共有を行った 共有できた教員93%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からコミュニケーションの方法について会議、研修等の機会を持ち、児童生徒の気持ちを受け止め寄り添う支援につなげた ・学校としてのサインの統一等、学級・学年からより大きな集団においても、個々のコミュニケーション方法の共有のための会議や研修を持つ
--	--	---	--

<専門性>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
新学習指導要領に沿った12年間のつながりのある教育課程を実施する	1月2月に、次年度に向けてカリキュラム・マネジメントシートとシラバスの見直し改善を実施 共通理解できた教員80%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスにより、大まかな12年間の系統性が確認できた ・今年度の実践を通して見直しを行い、12年間の系統性や内容の反省、この時期にこの力を育てる意味など、より理解を深める研修を行う ・行事や時期との調整、教材の配備など、学校全体を通じた効果的・効率的なカリキュラム・マネジメントを進めていく
児童生徒の適切な実態把握と課題設定により、確かな学びを積み上げる国語・算数（数学）の授業実践力の向上を図る	ラーニングマップを活用した実態把握に基づき、指導目標や内容を設定した授業実践を行った 11月には、全員が国語・算数（数学）の授業公開を行った 実施できた教員94%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングマップを全校統一の実態把握の指標として活用し、専門性の向上に有効であった ・研修方法を継続し専門性の向上に努める ・今後もラーニングマップの理解や障害が重い児童生徒への活用等について研修を深める ・授業デザインシートの活用や授業実践も、研修内容やグルーピングを工夫して実施する

<連携>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒の良さと本人・保護者の将来の願う姿を共有する個別の教育支援計画、個別の指導計画（以下、伊豆の国書式個別）を基にした学校教育目標の具現化を行う	伊豆の国書式個別を活用しての1年目。よさや長所の共有を意識した目標設定や面談を実施した 実施できた教員93%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に計画を作成・活用し、そこでの同じ課題を後期に向けて検討し改善を図った ・伊豆の国書式個別について、今後も検討・改善や共通理解のための研修を行う ・自立活動の理解における研修も必要である ・保護者や関係機関側からの意見も参考にし、面談方法や活用方法等、保護者や関係機関との効果的な情報共有の方法も探っていく
伊豆の国書式個別に基づき、保護者・関係機関との連携を図る	保護者や関係機関（放デイ・病院等）との情報共有と連携に活用した 実施できた教員93%	A	

学校や児童生徒について、地域への理解啓発を図る	週一回のペースでホームページを更新し情報発信した 実施できた教員89%	B	<ul style="list-style-type: none"> 週1～2回の更新ができた 更新の頻度や作業について、システムを明確にし、職員の作業負担を軽減できる方法で掲載を行う 地域住民や保護者など、見る側の視点で、ページ内の構成や工夫なども検討していく
	コロナ禍で制限があり、開校時に予定した学習は実施できなかった 可能な範囲での地域資源を活用した学習を実施 実施できた教員84%	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した学習の効果が実感できた 地域資源活用（人・物・機会・方法・アイデア）について、コロナの影響やコロナ後を見据えて計画を立案する コロナ禍でも実施可能な発信方法として、図工美術等の作品の出品や展示にも力を入れる
	あいさつを通して、つながりを意識する風土づくりをおこなった 実施できた教員87%	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内及び地域にも、あいさつを通じたつながり作りを推進できたが、不十分であったという意見もあった 進んであいさつを交わす環境作りを継続させる

<チーム学校>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
教職員一人一人がやりがいをもち新しい学校づくりへ参画する	学校評価や面談等で、個々の発見や提案を得て、校内体制の改善に取り入れた 構築できた教員87%	B	<ul style="list-style-type: none"> 発見や提案をしやすい環境は作られたが、意識の共有やシステム化にまでは至らなかった 今後、発見や提案を吸い上げ共有し、反映していくシステム作りを検討する
	面談等で、個々によさや強み、学校運営への抱負を伝えることができた 実施できた教員92%	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人が、自分のよさや強みを自覚し、学校運営に活かしたいという気持ちを持つことができた 学校運営について、効果的に発揮できる職員を適所に配置する

【令和4年度】
<安全・安心>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署	
児童生徒が安全に安心して生活できる学習環境の整備や危機管理体制を構築する	緊急時や災害時の行動の整理と訓練を実施する	緊急時や災害時の職員の役割や動きを理解し、適切に対応する	防災安全課 保健給食課 体育課	
		児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する	防災安全課 生徒指導課 体育課	
	安全対策・事故の未然防止のためにヒヤリハット事例の迅速な報告と安全点検の実施	校舎内や地域の危険場所の確認や改善を行うKY（危険予知）ミーティングを各学期初めに全職員縦割りで行う3回実施する		防災安全課 生徒指導課 各学部
		安全点検を実施後の対応を100%実施する		防災安全課

児童生徒一人一人の人権が尊重され、いきいきと活躍できる教育活動を実施する	人権研修及び人権感覚チェックの定期的な実施により、教職員の人権意識の向上を図り、児童生徒一人一人の人権を大切にしたい指導を行う	・学部会でミニ人権講座を実施する	各学部 生徒指導課
		・3分間セルフチェックで毎月、人権感覚チェックを実施する	生徒指導課
	児童生徒の願い、思い、気持ちを受け止め寄り添う支援をする	・児童生徒一人一人に合ったコミュニケーション方法を学年や学部で共有した ・専門家による指導助言を年3回、当事者の講演会を年1回、実施する	自立活動課

<専門性>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
新学習指導要領に沿った12年間のつながりのある教育課程を実施する	小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間が見通せるカリキュラム・マネジメントシートとシラバスを基に根拠ある指導の実践を行い、12年間のつながりを検証する	・実践の成果を共有し、次年度に向けてカリキュラム・マネジメントシートとシラバスの見直し改善を12年間のつながりの視点で行い、教員間で共通理解をする	教務課 各学部 カリキュラム・マネジメント委員会
		・シラバスの達成に必要な教材教具を整える	事務部
児童生徒の適切な実態把握と課題設定により、確かな学びを積み上げる国語・算数（数学）の授業実践力の向上を図る	ラーニングマップを活用して、個々の学習状況を把握し、適切な指導目標と指導内容を設定した授業実践を積み重ねる 学習評価に基づく授業改善の充実に向けた授業研究を1年間継続する	・ラーニングマップによる児童生徒の学習状況の評価を年間3回行い、国語・算数・数学の授業で、児童生徒が何を学んだのかを明らかにする	研修課 各学部
将来の生活を豊かにするためのキャリア教育のあり方を考える	将来の豊かな生活を見据え、なぎのはプランを基に小学部・中学部・高等部段階で大切にすることを共通理解する	・全職員が、なぎのはプランをキャリアの視点で見直す ・教職員向け進路研修や高等部見学を実施する	各学部 進路指導課

<連携>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
児童生徒の良さと本人・保護者の将来の願う姿を共有する個別の教育支援計画、個別の指導計画（以下、伊豆の国書式個別）に基づき、保護者・関係機関との連携を図る	長所活用型及び自立活動の視点に立った伊豆の国書式個別を活用した面談や懇談会を行い、家庭・学校・地域の役割を明確にする	・児童生徒の良さを学校と保護者で共有し、伸ばす ・伊豆の国書式個別を保護者や関係機関との連携に活用する	各学部 地域連携課 自立活動課

積極的に地域と関わり、学校や児童生徒について、地域への理解啓発を図る	交流する場の設定を行い、地域での学習の場を広げ、児童生徒の地域での活躍場面を増やす	・地域資源を活用した学習を実施する	各学部 文化芸術課 地域連携課
	地域への理解啓発のため、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域学習の様子を積極的に情報発信する	・ホームページ、学校だより等を活用し、児童生徒の作品等を情報発信する	情報教育課 地域連携課 文化芸術課 各学部
外部機関や有識者と連携し、社会の変化に合わせた学校の担う役割について考える	外部からの助言や情報をもとに、社会の変化に応じた学校の役割やキャリア教育のあり方について、話題にしたり考えたりする	・コミュニティスクール、就業促進協議会等を開催し、得られた助言や情報を共有する	進路指導課 企画会 各学部

<チーム学校>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
教職員一人一人がやりがいを持ち学校づくりへ参画する	業務内容や役割分担、学校運営について、提案を吸い上げ検討する	・提案について、学部会・分掌部会・主任会等で話し合う	企画会
	教職員一人一人が学び、考え、自分自身の良さや強みを生かし、役割を見つける	・管理職との面談等で、自身が学校づくりで力を発揮したいことや、自分の得意分野を伝える	企画会

4 監査対象期間における特色ある取組
【令和3年度】

取組概要	成果と課題
○伊豆の国版カリキュラム・マネジメントシステムの構築 ・シラバスに基づく授業実践 ・カリキュラム・マネジメントシートの活用 ・単元デザインシート、授業デザインシートを用いた授業研究	・シラバスを使用した授業を行い、学習指導要領の目標や内容を網羅した ・教科横断的な視点で学部学年の学習内容を見直すことができた ・実態に即した目標と内容を検討し、授業計画を工夫することができた ・学習評価を充実させ、指導方法の見直しを図った ・児童生徒の12年間の系統性に基いたカリキュラム・マネジメントの在り方を検討した
○グラウンドグリーンプロジェクト ・芝のコアの植付（ポット苗） ・ポット苗への育成（水やり） ・グラウンドへの苗の植付 ・植付けた苗の水やり・施肥 ・芝開き	・開校初年度に、全校児童生徒、保護者、教職員による学校グラウンドの芝生化を実現できた ・静岡県環境ふれあい課、芝草研究所等の関係機関の協力のもと、順調に生育させることができた ・11月に校内スポーツレクリエーションを開催し、学部ごとの種目や保護者参加の種目を実施し、芝生のグラウンドを学校全体で体感できた
○交通安全教室 大仁警察署交通指導員による ・信号、横断歩道練習（体育館） ・踏切、信号、横断歩道での歩行訓練（学校周辺） ・鉄道線路の隣接に対する安全教育の徹底	・ビデオやイラストなどを使用し、児童生徒の理解が深まった ・事前学習、現地学習では交通指導員の視点から注意指示を受けたことで、児童生徒だけでなく、職員にとっても良い教室であった

<p>○KYミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による校舎、グラウンド、学校周辺の危険個所のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・新設校であるため、校内だけでなく、校舎周辺にも気が付いていない危険個所があることに気が付くことができた ・児童生徒の所在不明の搜索訓練を実施した ・警察署による交通安全教室や防犯訓練等も参考に児童生徒の安全安心な学校生活のための研修等を実施した
<p>○スポーツレクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことを楽しみ、スポーツに親しむ ・開校初年度であり、児童生徒が保護者ととともにスポーツを楽しむことを目的とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの開催年でもあり、学部ごとの種目や保護者参加の種目を実施し競技種目であるポッチャやゴールボールなどを体験する機会を設けられて有意義であった ・ヨガやストレッチ等、生涯スポーツへの移行を目指した取り組みも行った
<p>○中学部作業学習（やくだち隊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくり、ポットでの育苗 ・プランターでの花の栽培 ・隣接校（東部特別支援学校）へのプランター整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に校内での花の栽培を実施した ・校内にプランターを設置し環境美化に努めた ・駐車場や道路沿いに設置することで、地域貢献活動につながった ・東部特別支援学校内にプランターを設置し、定期的に水やりを行うなど、交流の機会を図れた
<p>○地域交流（伊豆ゲートウェイ函南）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーナメントづくり（七タかざり） ・図工美術作品の展示 ・委託作業資材の提供（野菜の袋詰め） 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆ゲートウェイ函南のイベントに参加した ・当施設の七タイベントの装飾として、小学部の児童がオーナメント作りに取り組んだ ・スクールギャラリーとして、図工美術作品の展示を行った ・高等部生徒の委託作業として、野菜の袋詰め、お菓子の箱詰め作業を実施した ・学校近隣にある商業施設であり、今後も連携して学校の情報発信や生徒の社会参加の機会としていきたい

【令和4年度】

取組概要	成果と課題
<p>○伊豆の国版カリキュラム・マネジメントシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに基づく授業実践 ・カリキュラム・マネジメントシートの活用 ・単元デザインシート、授業デザインシートを用いた授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを使用しての授業を行い、学習指導要領の目標や内容を網羅する ・教科横断的な視点で学部学年の学習内容を見直す ・実態に即した目標と内容を検討し、授業計画を工夫する ・学習評価を充実し、指導を見直す ・児童生徒の12年間の系統性に基いたカリキュラム・マネジメントの在り方を検討
<p>◎つなぐつながるプロジェクト</p> <p><連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆中央ロータリークラブ支援による伊豆総合高校郷土芸能部の和太鼓演奏会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域と関わり、学校や児童生徒、特別支援教育について、地域への理解啓発を図る ・児童生徒にとって、和太鼓の演奏を聴く貴重な体験となった ・他校との交流を進めていく貴重な機会となった

<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆ゲートウェイ函南との連携による高等部委託作業資材の提供及びイベントへの参加（図工美術作品等の展示） <p><地域交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校所在地区（寺家・四日町区）に学校だより、PTAだよりの配布、学区の市町教育委員会と子育て支援課に学校案内の配布 ・ホームページに図工美術作品のギャラリーコーナー新設 ・中学部、作業学習の一環として寺家・四日町区の公民館、時代劇場に花とプランターを設置 ・高等部、地域ワークの一環として寺家・四日町区の公民館の清掃、学校近隣トマト農家で栽培補助、こども園とふれあい交流を実施 <p><学校間交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部は葦山小学校、中学部は葦山中学校、高等部は伊豆総合高校との間で、児童生徒間の直接交流や作品交流などの実施 <p><センター的機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の要請を受けて、特別支援学校の専門性に基づく支援を実施 ・特別支援教育に関する情報提供 ・近隣の小学校、中学校、高等学校に在籍する特別支援が必要な児童生徒に対する助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の校外への委託作業として貴重な経験であった（野菜の袋詰め作業） ・学校近隣にある商業施設との連携事業であり、今後も学校の情報発信や生徒の社会参加の機会として計画していきたい <ul style="list-style-type: none"> ・地域への理解啓発のため、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域に学習の様子を積極的に情報発信した ・交流する場の設定を行い、地域での学習の場を広げ、児童生徒の地域での活躍場面を増やした ・地域からの温かい理解のもと活動に広がりができています ・児童生徒にとっても、校内では得られない貴重な体験ができています <ul style="list-style-type: none"> ・交流相手校の児童生徒に本校職員が出前授業を実施したことで、今後の交流の機会を深めるのに有効であった ・授業交流や部活交流などに向けて、本年度は行事を中心とした交流を実施した ・交流実施初年度であるため、学校間の意志の疎通を図るために、打ち合わせが必要となり実施した <ul style="list-style-type: none"> ・様々な要請を受け、コーディネーターを中心に高校や地域のニーズに応じた対応を行った ・昨年度より高校からの相談の件数が増加した ・地域の民生委員を対象とした研修会を実施した
<p>○専門性向上研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はごろも夢講演会」開催 ・作家の東田直樹氏を招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症当事者（東田氏）の視点から有益な示唆を得ることができた ・コロナ禍のため、リモートの研修会として実施であったが、当事者の話を直接聞くことができ、障害に対する理解が一層深まった ・東田氏の障害に対する考え方に触れ、教員が日頃の児童生徒との関りを見直す機会となった
<p>○交通安全教室</p> <p>大仁警察署交通指導員による</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号、横断歩道練習（体育館） ・踏切、信号、横断歩道での歩行訓練（学校周辺） ・鉄道線路の隣接に対する安全教育の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオやイラストなどを使用し、児童生徒の理解が深まった ・事前学習、現地学習では交通指導員の視点から注意指示を受けたことで、児童生徒だけでなく、職員にとっても良い教室であった

<p>○KYミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による校舎、グラウンド、学校周辺の危険個所のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検等により、校内・校舎周辺にある危険個所について職員が情報共有できた ・児童生徒の所在不明の捜索訓練を実施した ・警察署による交通安全教室や防犯訓練等も参考に児童生徒の安全安心な学校生活のための研修等を実施した
<p>○防犯講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大仁署の指導のもと、不審者対応訓練を実施 ・さすまた等の防犯体制への助言、不審者への対応の仕方等の研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察官による実際を意識した訓練を行い、声の掛け方や誘導の仕方、さすまたの使い方等を学ぶことができた ・さすまたの設置場所、不審者の侵入経路の予測等、不審者への基本的な対応、施設設備への助言など参考になった
<p>○公開授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の研究成果を発表する機会を設定 ・日頃の授業研修の成果を参加者に公開し、フィードバックを得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・開校2年目の成果の発表として、国語・算数(数学)の授業公開を開催する ・研修助言者による講話をいただき、今後の学校運営の参考とする

5 教職員について

(1) 令和3年度異動状況

(単位:人)

職名 区分	本務職員											会計年度任用職員					合計			
	教育職員						行政職員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	非常勤講師(看護)	非常勤嘱託員		非常勤労務職員	小計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事									小計
転出者				1			1			1		1	2						0	2
退職者				1			1					0	1		2	1	1	1	5	6
転入者				11			11		1			1	12		1				1	13
新任者				2			2					0	2		1	1			2	4
再任用(新任)				2			2					0	2						0	2
差引増減	0	0	0	13	0	0	13	0	1	△1	0	0	13	0	0	0	△1	△1	△2	11

(2) 現員数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

職名 区分	本務職員											会計年度任用職員								小計	合計			
	教育職員						行政職員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	非常勤講師(看護)	非常勤講師	実習支援指導員	就労促進専門員	非常勤嘱託員			非常勤労務職員		
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事												小計	
男			1	33			34	1	2			3	37		1		1			1	2	5	42	
女	1	1		50	2	1	55				1	1	56	1	5	1		1	1			8	17	73
計	1	1	1	83	2	1	89	1	2	0	1	4	93	1	6	1	1	1	1	1	10	22	115	

(3) 健康管理について

【令和3年度】

ア 健康管理の推進

- ・ 教職員健康診断（結核・生活習慣病・婦人科・指定年齢健診・人間ドック・脳ドック）の完全な実施を図るとともに、疾病の早期発見と健康相談等の事後措置により、職員の健康の保持増進に努めた。また、情報機器作業従事者健康診断については、全員に周知し一次健診対象者を抽出している。
- ・ 学校職員衛生委員会を月1回開催し、職場の環境改善に努めている。学校職員衛生委員会で話題になった内容は、毎月の「学校職員衛生委員会だより」に季節の健康管理の話題と共に掲載し、全職員で情報を共有している。

イ 感染症対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、職員の出勤前の検温を含む健康状態について個々に記録を依頼した。また、出勤時には検温と手指消毒の徹底を図り、ウイルスを持ち込まない対策をした。そのほか、体調不良時には出勤しないなどの新型コロナウイルス感染症対策を徹底している。

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

- ・ 職員の健康管理のため、教職員健康診断（結核・生活習慣病・婦人科・指定年齢健診・人間ドック・脳ドック）の完全な実施を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療と健康相談等の事後措置により、職員の健康の保持増進に努めた。また、情報機器作業従事者健康診断については、全員に周知し一次健診対象者を抽出している。
- ・ 学校職員衛生委員会を月1回開催し、職場の環境改善に努めている。学校職員衛生委員会で話題になった内容は、毎月の「学校職員衛生委員会だより」に季節の健康管理の話題と共に掲載し、全職員で情報を共有している。また、職場の健康づくり支援事業を活用し、教職員のメンタルヘルスの向上に努めた。

イ 感染症対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、職員の出勤前の検温を含む健康観察の徹底を図り、体調不良時には出勤しないなどの対応をマニュアルに沿って実施している。また、出勤時には昇降口での検温と手指消毒を実施し、ウイルスを持ち込まない対策を継続している。

(4) 教職員の研修について

【令和3年度】

ア 研修目標

研究主題として、「確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり」を掲げ、地域における知的障害教育の専門性の基盤を作ることを目指し、研修・研究の充実を図り、その成果を教育実践につなげるよう努める

イ 研修テーマ

知的好奇心が「芽生え」、「伸長し」、「拡がる」国語、算数・数学の学び

ウ 研修内容

児童生徒の国語、算数・数学における学習状況の評価の充実と、教科の授業で確かな力を育む授業実践のPDCAサイクルの確立に取り組む。次年度は、今年度の取り組みを土台に、国語、算数・数学の系統的な指導方略の充実、教材開発の知見の蓄積を図る。

エ 具体的取組内容

(ア) 学部研修

学部ごとの授業研究、段階ごとの指導を省察するショートミーティングで研修を深める

a ラーニングマップを用いた学習状況の診断的評価の精緻化

・ラーニングマップを用いた、国語、算数・数学における児童生徒個々の学習状況把握
(年2～3回)

b 一人ひとりの実態・学習状況・学び方に応じた国語、算数・数学の実践

・知的障害各教科の系統性を踏まえた単元デザインや段階に応じた目標、内容、支援、評価の工夫

c 学習評価に基づく授業改善

・単元、授業デザインシートの活用による、単元における個々の学習状況の評価、指導の評価の一体的な実施

(イ) 全体研修

a 専門性向上研修(助言者招へい 静岡大学准教授)

・国語、算数・数学の授業づくり学習会(全3回)
・カリキュラム・マネジメント学習会(1回)

b 夏季テーマ別学習会

・9のテーマ(自立活動、キャリア、ICF、カリキュラム・マネジメント、性の指導、認知発達、行動理論、ファシリテーション、音楽の指導)の学習会の実施

c 国語、算数・数学の教材集の作成

(ウ) 学校公開

a 授業公開(国語、算数・数学を中心に)

・全ての国語、算数・数学の実践について、授業デザインシートを作成し授業公開を実施
・はごろも『夢』講演会
「子どもたちの学びを編み出す授業づくり ～ラーニングマップから学びを創り出そう～」

【令和4年度】

ア 研修目標

研究主題として、「確かな学びを積み重ね、自らの良さを発揮できる授業づくり」を掲げ、地域における知的障害教育の専門性の基盤を作ることを目指し、研修・研究の充実を図り、その成果を教育実践につなげるよう努める。

イ 研修テーマ

知的好奇心が「芽生え」、「伸長し」、「拡がる」国語、算数・数学の学び

ウ 研修内容

児童生徒の国語、算数・数学における学習状況の評価の充実と、教科の授業で確かな力を育む授業実践のPDCAサイクルの確立に取り組む。また、学部ごとの授業実践上の課題に応じた研修の重点を設定し、学部経営目標に応じた授業づくりの知見を整理する。

エ 具体的取組内容

(ア) 学部研修

学部ごとに実施する1人1授業研究、学部ごとの研修の重点に即した授業づくりの推進

a ラーニングマップを用いた学習状況の診断的評価の精緻化

- ・ラーニングマップを用いた、国語、算数・数学における児童生徒個々の学習状況把握
(年2～3回)
- b 1人1授業研究(国語、算数・数学)の実施と段階ごとの授業実践の充実
 - ・知的障害各教科の系統性を踏まえた単元デザインや段階に応じた目標、内容、支援、評価の工夫
- c 学習評価に基づく授業改善
 - ・単元、授業デザインシートの活用による、単元における個々の学習状況の評価、指導の評価の一体的な実施
 - ・観点別学習評価の3観点に基づく評価規準、評価基準を設定した学習評価の充実
- (イ) 全体研修
 - a 専門性向上研修(助言者招へい 静岡大学准教授)
 - ・国語、算数・数学の授業づくり学習会
 - ・カリキュラム・マネジメント学習会(1回)
 - b 夏季テーマ別学習会
 - ・12のテーマ(自立活動、ICF、他機関との連携、ファシリテーション、認知発達、行動理論、作業学習、音楽の指導、性の指導、知的障害の授業づくり、体育の指導、図工・美術の指導)の学習会の実施
 - c 国語、算数・数学の教材集の作成
- (ウ) 授業研究会
 - a 中心授業の実施と研究協議
 - ・国語、算数・数学の授業研究と研究協議

6 防災対策について

【令和3年度】

ア 指導目標

新設校舎で児童生徒が安全に安心して生活できるよう防災体制を整える

イ 具体的取組

緊急時やいろいろな災害時の行動の整理と訓練を実施する(火災、地震、水害訓練の実施)

- ・地震、風水害等の様々な状況に応じたマニュアルを作成し、防災の意識を高める
- ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応する
- ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する
- ・KY(危険予知)ミーティングを各学期に実施し、校内外の危険箇所を知る
- ・定期的に備品点検や設備の安全点検を実施する

ウ 防災訓練実施状況

- 4月・KYミーティング(避難経路確認・校内、学校周辺安全点検)
- 5月・防災訓練(火災)
- 6月・職員「危機管理研修」(防災等の危機管理マニュアル)
- 8月・職員引き渡し訓練シミュレーション
 - ・KYミーティング(搜索訓練)
- 9月・総合防災訓練「COCOO」配信訓練
- 11月・災害訓練(大雨洪水訓練)・災害伝言ダイヤル体験
- 12月・全校引き渡し訓練 非常食体験
- 1月・KYミーティング(学校周辺安全点検)
 - ・地震防災訓練(抜き打ち訓練)

【令和4年度】

ア 指導目標

児童生徒が安全に安心して生活できるよう防災体制を整える

イ 具体的取組

緊急時やいろいろな災害時の行動の整理と訓練を実施する(火災、地震、水害訓練の実施)

- ・地震、風水害等の様々な状況に応じたマニュアルを作成し、防災の意識を高める
- ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応する
- ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する

- ・KY（危険予知）ミーティングを各学期に実施し、校内外の危険個所を知る
- ・定期的に備品点検や設備の安全点検を実施する（毎月1回）

ウ 防災訓練実施状況

- 4月 ・KYミーティング（避難経路確認・校内、学校周辺安全点検）
 - ・職員「危機管理研修」（防災等の危機管理マニュアル）
 - ・防災訓練（火災）
- 7月 ・防災訓練（大雨洪水訓練）
- 8月 ・災害時職員担当打ち合わせ
 - ・全校総合防災訓練 非常食試食体験 新1年生災害時引き渡し訓練
- 12月 ・災害伝言ダイヤル体験 地域防災訓練
- 1月 ・KYミーティング（学校周辺安全点検）
 - ・防災訓練（地震抜き打ち訓練）

7 学校開放について

地域に開かれた学校を目指し、体育館等学校施設を開放している。

【令和3年度】

施設名	利用種目	利用日数	使用料(電気代)
体育館	運動機能訓練会	1日	0円

【令和4年度】

令和4年9月30日現在

施設名	利用種目	利用日数	使用料(電気代)
体育館	運動機能訓練会	4日	0円
	スポーツ行事	1日	0円

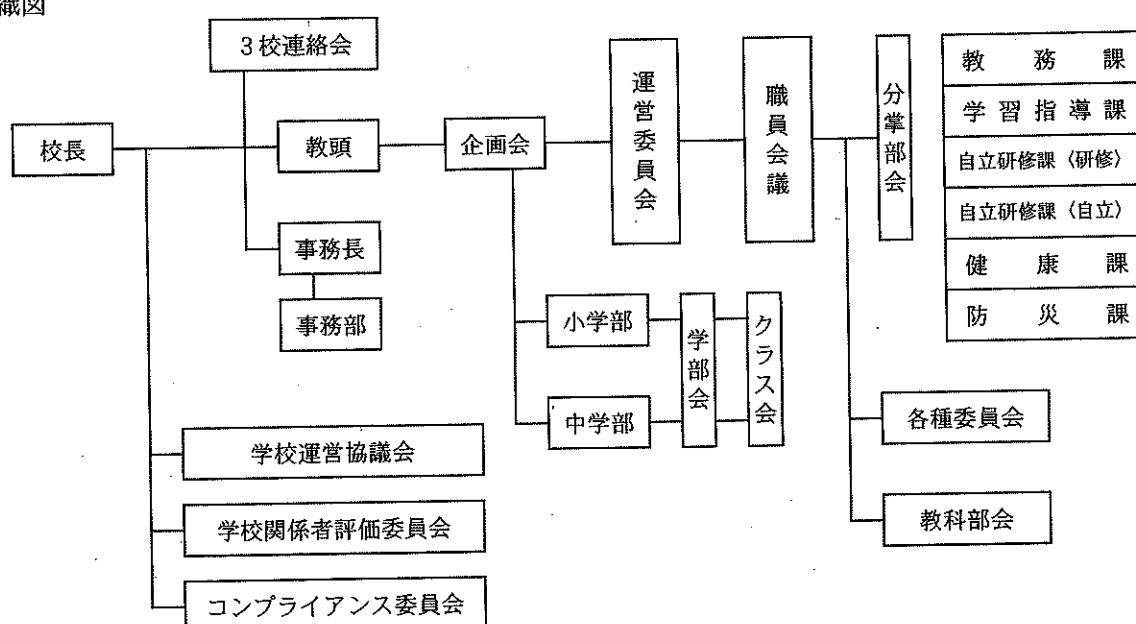
事務事業の概要（伊豆下田分校）

1 概要

(1) 学校の沿革

- 昭和 48. 4. 1 賀茂郡知的障害者施設組合伊豆つくし学園の開設に伴い、下田市立稲梓小学校及び、稲梓中学校の分校として、同施設内に設置
- 50. 4. 1 特殊学級(肢体不自由)が認可され、小・中学校に各1学級設置
- 54. 4. 1 養護学校教育義務制実施に伴い、県立東部養護学校伊豆つくし分教室となる
- 平成 11. 4. 1 東部養護学校伊東分校伊豆つくし分教室と所属変更
- 20. 3. 31 静岡県立東部養護学校伊東分校伊豆つくし分教室廃止
- 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊豆下田分校として下田市立下田小学校敷地内に開校
- 令和 3. 4. 1 本校変更に伴い学校名が静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校となる

(2) 組織図



各種委員会		
校内就学支援委員会	防災対策委員会	学校自己評価委員会
地域連携委員会	交通安全対策委員会	人権・いじめ防止対策委員会
共生・共育推進委員会	職員安全衛生委員会	校内医療的ケア委員会
研修推進委員会	学校保健委員会	

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）人を目指す

(2) 目標具現化の柱

ア【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校

イ【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

ウ【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校

エ【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等（重点目標はゴシック体で記載）

【令和3年度】

＜安全・安心＞

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
安全・安心に学校生活を送るための体制の強化	防災・防犯体制の再確認とマニュアルの見直し	・防災・防犯訓練の計画策定と課題意識を持つての訓練実施 ・防災マニュアルの検討、改善	A	・防災、防犯への備えや個々の役割、行動の確認 ・防災マニュアルを随時検討し、改善する
	危機管理意識と緊急時対応の向上	・緊急時を想定した訓練やロールプレイを用いた実践的な訓練の実施	A	・訓練を通して、緊急事態に対する判断や行動への対応
いじめ根絶と人権に配慮した指導の徹底	教職員の倫理観の高揚及びいじめ根絶と人権に配慮した指導の徹底	・人権教育に関する職員研修会や人権いじめチェックの実施	B	・人権に関する研修会や人権意識を尊重した教育活動を恒常的に展開する
学びや生活に適した学校環境の整備及び点検・改善	危険個所の点検と改善	・毎月の安全点検や日常を通し、危険な箇所の状況確認及び整理整頓の徹底	A	・校内の整理整頓 ・危険個所の確認や対応策をとり、状況を共通理解する
	学校環境の整備	・新型コロナウイルス感染症等を防ぐための配慮及び環境の工夫	A	・学校の安全配慮について、教職員間の共通理解 ・3密を避けた環境の整備及び感染の予防

＜専門性＞

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	新学習指導要領を踏まえた指導内容の見直し及び授業の充実	・育成すべき資質・能力の習得・向上・定着に向け、教科の観点を入れた年間指導計画の作成	A	・教科等横断的な視点での指導内容と年間指導計画の見直し

研修による授業の充実と専門性を高める授業づくりと改善	児童生徒が主体的に学びあい、生きる力を育む授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の確かな育成を目指した「主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの実践」 ・学習指導案や授業カード・授業評価シートを用いた、一人一授業の実施 ・中心授業事後研修において、小グループ討議による参加型授業検討会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・提案に沿った一人一授業を各自が行い、授業実践・改善を通して授業力を向上させる ・児童生徒のあらわれの見取り方や評価の仕方を、建設的な討議を通して学び合い、授業力を向上させる
	特別支援教育にかかわる専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・内外部講師による学習会や研修出張後の伝達講習の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修で学んだことを授業づくりや授業改善、児童生徒に生かす
自立と社会参加を目指したキャリア教育の充実	卒業後の生活を見据えた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いた進路学習会や施設見学会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する知識が高まり、小学部段階からのキャリア教育を実践する
	効果的な個別の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度評価や前籍校の様子を踏まえた的確な個別の指導計画の検討と達成に向けた取組 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス検討を通し、児童生徒の課題から目標を設定し、指導・支援を行う

<連携>

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
地域に根ざし、児童生徒の学習課題に応じた共生・共育の推進	目的に沿った学校間交流と交流籍を活用した交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的・効果的な交流及び共同学習の推進と交流籍の実現 ・ペアやグループによる小集団の交流活動の推進及び相互交流の増加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校及び地域にとっての有意義な交流を行う ・児童生徒自らが、交流校の児童生徒と一緒に活動に取り組むための支援体制を構築する
児童生徒にとって有益な支援体制と社会との連携作りを推進	学校と地域との連携作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した授業や地域の方と一緒に取り組む計画的な地域学習の実践及び協働学習の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動・生活単元学習・作業学習等を通し、地域で生きる力につながる交流及び共同学習を実践する
地域の特別支援教育のセンター的機能としての情報発信・啓発活動	賀茂地区関係機関や地域とのつながり及び地域の力を高めるセンター的機能の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに応じた学校公開の実施 ・関係機関と連携した教育的ニーズに応える指導の充実 ・校外からのニーズに対応する校内組織の構築 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のセンター的機能の理解を推進させ、外部からの教育相談や要請に応じた関係機関との支援会議等の充実を図る
	教育活動の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関、地域、保護者等とのつながりを高めるためのホームページやお便り等の情報発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を理解してもらうための情報を効果的に発信する

<チーム学校>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
「チーム下田」による、全員参加の業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善の目的の共有 ・会議時間の短縮化や時間設定、工夫等による業務の効率化 ・協働できる組織風土の醸成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化を図り、働きやすい職場環境を作り出す ・会議の短縮化、効率化を意識させ実践する
信頼される学校づくりに向けた意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス意識を高め、不祥事根絶を推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事0件、交通加害事故0件

【令和4年度】

<安全・安心>

取組目標	達成方法(取組方法)	成果目標	担当部署
危機管理意識と緊急時対応の向上と安全体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時を想定した訓練の実施 ・マニュアルの理解と事故原因の情報共有 ・毎月の安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練を通して、緊急事態に対する判断や行動への対応ができた ・環境整備や事故防止に役立った 	健康課 防災課
教職員の人権に配慮した指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の職員研修や事例検討会、人権感覚チェックの実施 ・一人一人の人権を大切にしたい支援と指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を指導に活かすことができた ・人権に配慮した適切な対応と自己肯定感を高める指導ができた 	学習指導課
学校環境の整備と安全安心な学校生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症等を防ぐための配慮や環境の工夫 ・健康、食に関する指導の充実 ・学校生活の充実につながる医療的ケアの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の整備及び感染予防ができた ・健康な体作りや食育に興味をもって授業に参加している ・緊急時対応について保護者との共通理解が進んだ 	健康課 各学部

<専門性>

取組目標	達成方法(取組方法)	成果目標	担当部署
児童生徒が良さを発揮し、主体的に学びあう授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングマップを活用した国語・算数(数学)の授業実践と研修を進める ・学習指導要領に基づいた年間指導計画の見直しと改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数(数学)の授業公開をし、授業改善ができた ・教科横断的な視点を持ち、年間の授業ができた 	自立・研修課(研修) 教務課 各学部
個別の指導計画に基づいた授業の充実と専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・的確な実態把握と目標設定による個別の指導計画の作成と自立活動の指導の充実 ・研修会、学習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を活かした授業実践で授業力が向上した ・助言や学んだことが指導に活かされた 	自立・研修課(自立・研修) 各学部

<連携>

取組目標	達成方法(取組方法)	成果目標	担当部署
賀茂地区関係機関や地域とのつながり及び地域の力を高めるセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに応じた学校公開や教育相談の実施 ・関係機関と連携した教育的ニーズに応える指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のセンター的機能の理解が進み、地域の学校の教育的ニーズに応じた支援ができた 	地域連携委員会 企画会

学校や地域への理解啓発を図り、社会参加をめざす	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な学校間交流と居住地校交流の推進と内容の充実を図る ・地域資源を活用した授業の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流校の児童生徒と活動に取り組むための支援体制を組んだ交流が実施できた ・授業で地域資源を活用した学習を実践できた 	共生教育推進委員会 各学部
-------------------------	---	---	------------------

<チーム学校>

取組目標	達成方法(取組方法)	成果目標	担当部署
「チーム下田」による信頼される学校づくりに向けた意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容や役割分担について提案、実行できる組織づくり ・コンプライアンス意識を高め、不祥事根絶を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案した取組みができ、仕事にやりがいを感じる事ができた ・不祥事0件、交通加害事故0件に取り組めた 	各学部 各分掌

4 監査対象期間における特色ある取組

【令和3年度】

取組概要	成果及び課題
<p>集会を活用した取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係の仕事や個人の活躍できる場を設定するため、集会や朝の運動の時間を発表の場として設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や朝マラソン時など、学校全体で取り組む体制をつくる ・学級での取り組みや授業づくりに小集団の協議の場を設定するなどの意識づくりを行う
<p>全校でのあいさつ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基本となる挨拶、姿勢など基本的な学習目標を2ヶ月ごとに立て、学級を中心に重点的に指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や授業での機会を設定し、挨拶、姿勢など学級を中心に取り組む ・授業の準備や片付けなど、活動の前後にも意識して取り組む
<p>交通安全教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか学習を通し、横断歩道や交差点などの、交通ルールを確認する ・自主通学を行っている中学部生徒に対しては、定期的に通学指導を行う。また、自主通学に向け練習を行う児童については、家庭と連携を取り合いながら、授業の中でも指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室での交通ルールや歩行の仕方を振り返り、まちなか学習で実践し、安全教育とも併せて身に付けさせる ・保護者の意識を変えていくために、進路指導と合わせて取り組む
<p>生活月目標の設定と取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標を2ヶ月単位で設定し、子ども達が理解できるよう、呼びかけや視覚化して意識付けを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の運動の時間に生活目標を確認し、日々の生活場面では、学級での取り組みを中心に行う ・視覚化して児童生徒にもわかりやすく伝える
<p>小学部からの進路学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年段階や個々の実態・状況に応じて、勤労観や職業観を育む ・個別の教育支援計画の作成を通し、地域での生活に必要な支援を保護者と共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での活動を地域の人たちとのかかわりが持てる活動内容や計画とする ・地域や外部人材の方と様々な学習を行い、その中で地域の人との触れ合いや人に接するマナーを意識した指導も行う ・年間指導計画の学習内容に教科横断的な視点を入れる ・保護者への進路学習会を定期的で開催できるように計画を立てる ・学部や全体での学習会を通して、目標や支援の共有を図る

<p>小学部からの保健学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自ら健康的な生活の必要性に気付き、自分自身の健康管理ができるような習慣を身に付けられるよう支援する ・手洗い手順表を利用し、手洗い指導及び身体の清潔の指導を行う ・学年段階や年齢に沿った性の指導を行う ・熱中症対策計器を設置し、予防的に熱中症対策を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い手順表を使い、洗い残しがないよう意識させて行わせる ・個別の指導計画をもとに日常生活全般にわたって児童生徒の目標を立てて取り組む ・健診の結果を伝えることで保護者と連携しながら健康的な生活や性について考える ・保健室前に掲示し、熱中症の予防、対策を行う
<p>学校間交流・居住地校交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現に向けて、児童生徒の社会性を養うとともに、地域と学校との相互理解を深めるため、小中学校との学校間交流や居住地校交流を積極的に推進する ・学校間交流では名前で呼び合ったり、相手の立場を思いやったりする活動を増やす ・中学部校外作業学習を通して、地域での清掃活動を積極的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流2校（下田小、稲稗中）、居住地校交流8校（下田小、稲稗小、熱川小、南中小、松崎小、下田東中、稲稗中、稲沢中）の活動を実施する ・教員による読み聞かせの時間を設定し、読み聞かせを通し、図書館の利用や図書活動と連携した活動を推進する ・校外作業学習の活動を通して、清掃活動による地域貢献を行う

【令和4年度】

取組概要	成果及び課題
<p>地域の特色や人材を生かした学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域へでたり、地域の産業などから学習のテーマを設定したり、地域の人、施設、店と連携、協力しての学習活動を展開する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業などからテーマを決め、体験を取り入れた学習活動を行う ・同じテーマで次年度にも継続的に学習に取り組むことで、知識、経験の積み重ねができる。 ・外部指導者の授業、施設見学を行い、地域とのつながりを持つことができる
<p>交通安全教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか学習、交通安全教室で交通ルールを確認する ・火災、地震などの避難訓練の実施 ・1ヵ月単位で生活目標を設定し、学級、学部集会を設定し、児童生徒への呼びかけや意識付けを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を実施し、校外へでる際やまちなか学習で実践できた。交通ルールを確認しながら歩くことができた ・訓練前後に話をすることで発災後の行動や避難の仕方を確認することができた ・日々の生活の様子は学級が中心となり、行う。掲示を工夫し、意識付けを行った ・学部集会では、目標の振り返りを行うとともに、良いあらわれをみんなの前で発表や賞賛をした
<p>進路先の学校見学会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年段階や個々の実態に応じて、勤労観や職業観を育むとともに、地域の生活での支援や進路についての情報を保護者と共有する ・小学部からの見学や情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部段階から高等部への学校見学会に参加し、進路についての見通しや支援について考えるように情報を保護者と共有した ・単元実施後に学習内容についての評価をし、次年度に向けての案を作成する ・複式の学級で1年ごとの学年に応じた計画が難しいため、小学部低学年から高学年、中学部と複数年で計画を考えることも抑える必要がある

<p>健康な身体を目指した保健学習・保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や測定を活用して保護者へ周知するとともに健康的な生活を送るための習慣を身につけられるよう支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定、健診の際には、生活、健康についての保健指導を行うようにした ・生活チェック表や健診結果をもとに発達段階に応じた食育指導や生活習慣への指導を行うようにする ・保健室前に生活や身体についての掲示物を作成、掲示し、児童生徒が興味・関心を持って触れられるようにした
<p>計画的な居住地校交流の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との学校間交流や居住地校交流を積極的に推進し、身近な人との交流を図る ・校外で地域資源を活用した活動を積極的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流1校、居住地校交流9校の活動を実施した ・学校間交流では、合同運動会を実施し、交流種目にも取り組み、相互理解を深めることができた ・中学部の学校間交流は下田市の中学校合併に伴う今後、話し合いを進めていく ・地域の人、施設の人を講師として招いての学習を進めることができた。 ・地域の産業など特色を生かした授業づくりができた ・中学部では作業学習での製品をもとに店、資料館とつながりをもつことができた

5 教職員について

(1) 令和3年度異動状況

(単位:人)

職名 区分	本務職員					会計年度任用職員					小計	合計	
	教育職員			行政職員		教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(臨)	非常勤講師(看護)	非常勤労務職員			
	教頭	教諭	小計	主査	小計								
転出者		1	1		0	1	1	2				3	4
退職者		2	2		0	2						0	2
転入者		4	4		0	4						0	4
新任者			0		0	0						0	0
再任用(新任)			0		0	0						0	0
差引増減	0	1	1	0	0	1	△1	△2	0	0	0	△3	△2

(2) 現員数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

職名 区分	本務職員					会計年度任用職員				小計	合計	
	教育職員		小計	行政職員		本務計	教諭(任)	養護教諭(臨)	非常勤講師(看護)			非常勤労務職員
	教頭	教諭		主査	小計							
男	1	4	5		0	5					0	5
女		12	12	1	1	13	2	1	1	2	6	19
計	1	16	17	1	1	18	2	1	1	2	6	24

(3) 健康管理について

【令和3年度】

- ア 教職員全員が生活習慣病健診と結核健診、人間ドッグ、脳ドッグ、指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努める。再検査になった職員全員が再検査を受け、医師から指導・治療を受ける。
- イ 県が実施するVDT健診・腰痛健診に関して2次検診実施者は指導を受けるものとする。
- ウ 朝の打合せ時間前の、ストレッチ体操は実施するように努める。
- エ メンタル等精神疾患を抱える教職員に「職場の健康づくり講座」実施予定
- オ 相談しやすい雰囲気づくりに努め、定時退勤日や会議の時間を設定するなど、働きやすい職場づくりになるように努める。

【令和4年度】

- ア 教職員全員が生活習慣病健診と結核健診、人間ドッグ、脳ドッグ、指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努める。再検査になった職員全員が再検査を受け、医師から指導・治療を受ける。
- イ 県が実施するVDT健診・腰痛健診に関して2次検診実施者は指導を受けるものとする。
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策として教職員の健康観察を実施した。
- エ 教職員に「職場の健康づくり講座」を実施してメンタルヘルス向上に努めた。
- オ 職員安全衛生委員会を開き、職場の環境改善に努めた。また、相談しやすい雰囲気づくりに努め、定時退勤日や会議の時間を設定するなど、働きやすい職場づくりになるように努める。

(4) 教職員の研修について

【令和3年度】

- ア 研修目標
学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業改善に資する研修を推進する
- イ 研修テーマ
学習評価授業評価の理解と実践 ～PDCAサイクルに基づいた授業づくり～
- ウ 研修内容
 - ・ 2年間で積み上げた研修の成果を生かして授業づくりを進める。
 - ・ 昨年度の課題に対してアプローチするとともに、2年間で積み上げた研修の成果を生かした授業づくりを積み重ねることで、観点別学習状況の評価を取り入れた授業づくりのサイクルがより定着するのではないかと考える。
 - ・ 継続して小学部は生活単元学習、中学部は作業学習を窓口にし、授業づくりを中心に研修を進める。

- ・ 学習評価を行い、PDCA サイクルに基づいた授業づくりを実践することで、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実現を目指す。
- ・ 単元終了後の授業評価、学習評価の充実を図り、単元間や学年間のつながり、教科横断的な視点で年間指導計画を見直し、次年度の作成に活かす。
- ・ 授業研究会を年2回（小学部1回、中学部1回）実施する。
- ・ 一人一授業で単元カード、授業カードを作成し、授業実践を積み重ね、学習評価授業評価を行い授業の改善を行う。

【令和4年度】

ア 研修目標

学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業改善に資する研修を推進する

イ 研修テーマ

児童生徒が思考しながら取り組む国語、算数（数学）、自立活動の授業づくり

ウ 研修内容

- ・ 児童生徒の障害や状態を理解し、持っている力や生活および学習上の課題を捉える。
（自立活動の内容を確認し、個別の指導計画を立てる。発達検査を実施する）
- ・ 児童生徒の現在の学習状況をもとに、段階の目標や学習内容を把握する。
（ラーニングマップの学習会の実施）
（児童生徒一人一人についてラーニングマップを作成する）
- ・ 思考を導くための活動内容や教材教具を工夫した授業実践をする
（一人一授業の実施（国語・算数、自立活動の公開授業）をして事後研、グループ研修で「子どもの思考する姿」、教材教具の工夫、授業構成等について考える）

6 防災対策について

【令和3年度】

ア 指導目標

児童生徒が安全で安心した生活を送ることができるよう、学校環境の安全確保に努めるとともに、命を守るための防災教育を推進する

イ 取組内容

- ・ 大規模災害時のシミュレーションや、課題意識を持つての防災訓練等、実践的な訓練の実施
- ・ 下田小学校、下田市危機管理課、下田市教育委員会との連携、役割の確認
- ・ 不審者対応マニュアルをもとにした訓練の実施
- ・ 災害時用備品の計画的な整備及び防災用品の管理
- ・ 児童生徒の実態に合った防災教育の実施
- ・ 児童、生徒が安全に学校生活を送るための安全点検の実施
- ・ 危機管理マニュアルの見直し

【令和4年度】

ア 指導目標

児童生徒が安全で安心した生活を過ごせる教育環境を作り、危機管理マニュアルを周知し、緊急時の初動対応、役割について共通理解を図り、命を守るための安全意識を高める

イ 取組内容

- ・ 大規模災害時のシミュレーションや、課題意識を持つての防災訓練、研修会の実施
- ・ 下田小学校、下田市危機管理課、下田市教育委員会、地区自治会との連携、役割の確認
- ・ 不審者対応マニュアルをもとにした警察と連携した訓練の実施
- ・ 災害時用備品の計画的な整備及び防災用品の管理
- ・ 児童生徒の実態に合った防災教育の実施
- ・ 児童、生徒が安全に学校生活を送るための安全点検の実施
- ・ 危機管理マニュアルの見直しと災害時のマニュアル作成

7 学校開放について

【令和3年度】

学校施設開放 実績なし

【令和4年度】

学校施設開放 実績なし

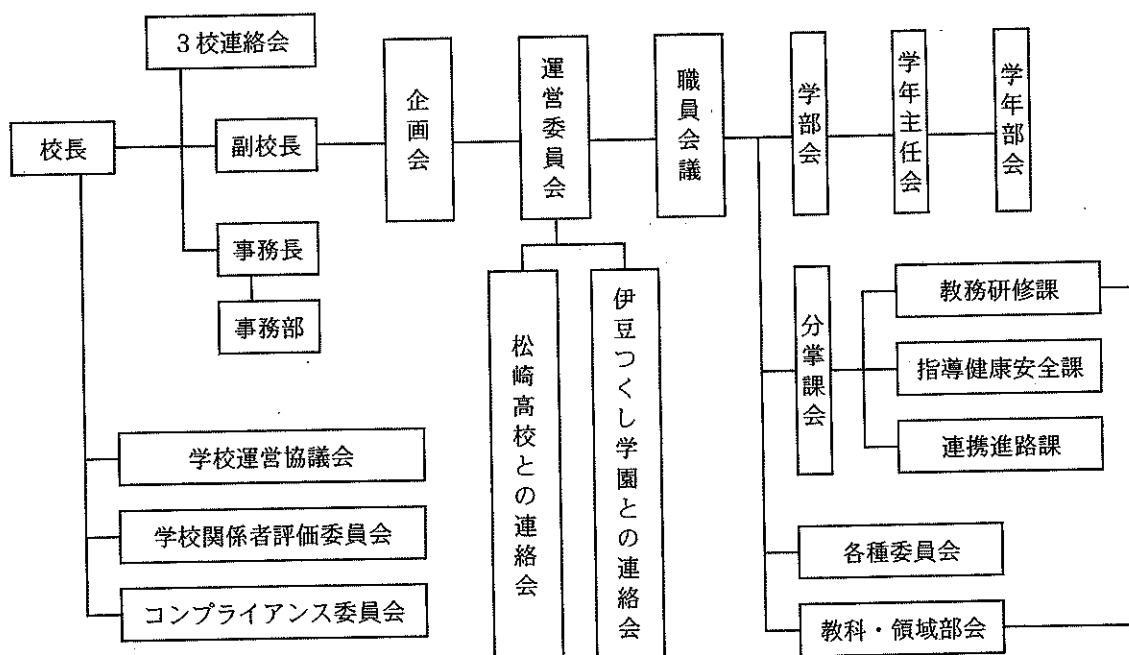
事務事業の概要 (伊豆松崎分校)

1 概要

(1) 学校の沿革

- 平成 23. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊豆松崎分校として静岡県立松崎高等学校の敷地内に開校
- 23. 4. 8 開校式・入学式
- 26. 3. 11 第1回卒業証書授与式
- 令和 3. 4. 1 本校の変更に伴い学校名が静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校となる

(2) 組織図



各種委員会		
・校内就学支援委員会	・交通安全推進委員会	・防災対策委員会
・入学者選考委員会	・職員安全衛生委員会	・学校保健委員会
・個別の指導計画検討委員会	・個別の教育支援計画検討委員会	・学校自己評価委員会
・研修推進委員会	・人権教育委員会/いじめ防止等対策委員会	
・交流教育委員会(共生・共育) (地域連携)		

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく(「開く」「拓く」「啓く」)人を目指す

(2) 目標具現化の柱

- ア【安全・安心】命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ【専門性】確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ【連携】保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ【チーム学校】教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

【令和3年度】
 <安全・安心>

取組目標	達成状況	評価	成果と課題
安全で安心して生活できる環境づくり	緊急時体制と環境の充実	・緊急時の訓練等も充実し訓練では協力して対応することができた	B ・危機管理マニュアルを改訂した ・共通理解や確認を行いたい
	防災、防犯体制の充実と感染症対策の継続的な対応	・防災訓練、防災教育は実践的に取り組んだ ・感染症対策も周知徹底されていた	A ・松崎高校と合同での取り組みが効果的だった ・今後も実践的な訓練や防災教育を継続したい
	人権を尊重する教育の実践	・人権アンケートや日頃の関りを通して生徒の思いを丁寧に聞いた	A ・定期的な人権アンケートが効果的だった ・生徒が主体的に取り組めるよう教職員の声掛けを精選したい
・生徒同士が励まし、賞賛し助け合うなど、関わり合いながら活動した		A ・発表と承認、自己評価等の機会を設定していた ・教職員がモデルとなり取り組む	
心身ともに健康に生活できる意識・習慣の確立	自己の身体や心の状態理解と自己コントロール力の育成	・生徒の実態はさまざまであるが、研修や自立活動を通して意識的に指導することで個々に成長がみられた	B ・引き続き教職員で共通理解するとともに生徒の自己理解を図り、タイミングの良い支援を行っていく
	健康に生活できる習慣の確立	・朝体育などで目標を決めて積極的に取り組んだ ・タイムリーに保健指導を行い、生徒が実践することができた	A ・感染症対策については、慣れて緩まないように引き続き取り組む

<専門性>

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
自立と社会参加を目指した教育（キャリア教育）の充実	生徒のはたらく力とより良く生活する力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修などを通して授業の目標や評価を共有する取組が進んだ 定期的な面談を通して保護者も含め目標や取組、課題を共有した 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業では目標を立てプロセスを共有し、自他の評価を行う キャリア・パスポート活用のための指標や活用法を整理する
	コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画（自立活動）に目標と支援を明記して指導し、生徒が思いを伝えられるようになってきている 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で共有し、場に応じた適切な指導を粘り強く続けたい 理解や支援のための研修に取り組む
生徒を理解し、個々の生徒に応じた授業力の向上	主体的な学びを支援する授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研修等を通して目標設定、支援、学習評価が充実し、作業学習では、生徒が「自分から、仲間と共に」学ぶ姿が増えた 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修課を中心に取組み授業改善の成果が上がった 他の教科・領域でも教職員がそばにつかず主体的に活動する授業づくりに取り組みたい
特別支援教育に関する専門性の向上	授業の充実を図る専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で研修が制限されたが助言者や外部講師から学んだことが授業改善につながった 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き研修機会を増やし、全体で共有するとともに授業改善やカリキュラム・マネジメントに生かす

<連携>

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
共生・共育の充実	松崎高校との交流及び共同学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも工夫して実施し、声を掛け合うなどの関わりが増えた 	A	<ul style="list-style-type: none"> 松崎高校と話し合いスポーツや間接交流などを行った
	地域とつながる「共生・共育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業や部活動の外部講師や地域での協働活動を通して「共生」の理解が高まった 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活動する意義を共有して取り組んだ。学校だよりなどの発信を拡げたい
保護者・地域関係機関との連携の推進	保護者、地域関係機関との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で機会は制限されたが実習や連携会議等で情報確認できた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小・中と連携して早い段階から適切に情報提供をしたい
		<ul style="list-style-type: none"> 支援会議や連携支援会議等で共通理解を図ることができた 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に応じた対応をした 早期から役割分担を行いたい
特別支援教育センター的機能の充実	適切な就学及び学びの充実に関する理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問や高校への支援などニーズに応じた支援の積み重ねができた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級の担任支援や校内体制づくりなどさらに地域のニーズに応えたい

<チーム学校>

取組目標		達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある学校にするための業務改善の推進	業務の見直しと改善の推進	・日課の見直しで改善した一方で学校変更や事務不在により業務の増加もあった	B	・会議の見直しなど全校で取り組み、指導に係る時間確保に努める
信頼される学校づくりのための意識向上	信頼される学校づくり	・コミュニケーションが高まり、不祥事や交通加害自己ゼロを達成した	B	・有効な不祥事根絶研修を行うとともに同僚間のサポート体制を維持する

【令和4年度】

<安全・安心>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
安全で安心に生活できる環境づくり	・個々の教職員が適切な判断と行動のできる実践的なマニュアルと効果的な訓練の実施	・役割や方法を全教職員が理解し、対応することができた	指導健康 安全課 学部
	・命を守る体験的な学習の実施	・生徒に防災、防犯の備えが身についた	
	・生徒の人権を尊重した関わり方の効果的な研修の実施	・生徒の意思や行動を大切にするなど人権を尊重した教職員の関わりができた	
	・生徒が互いを認め合う機会の設定	・互いを認め合う生徒同士の関わりが育った	
心身ともに健康に生活できる意識・習慣の確立	・運動への意識向上と充実感を持てる場面の設定	・生徒が積極的に運動に取り組んだ	指導健康 安全課 学部 (体育科)
	・健康な生活を送るための保健指導の実施	・生徒が保健指導で学んだことを日々の生活に活かした	

<専門性>

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
自立と社会参加を目指した教育(キャリア教育)の充実	・生徒・保護者が個々の目標を理解し行動するための研修や定期的な面談の実施	・生徒が自己の目標を理解し、各授業、実習に臨み、自己評価することができた	連携進路課 教務研修課 学部
	・キャリア・パスポートの活用	・生徒が生活を振り返り、改善に取り組んだ	
	・生涯学習の推進	・生徒が自他を大切にし、適切に自己表現するとともに教育活動に前向きに取り組んだ	
	・自己肯定感を高め、適切な自己理解と自己コントロール力を高める自立活動を中心とした教育活動全体での取組		

学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画などを活用した、個別最適な学び(個に応じた指導)やカリキュラム・マネジメントの取組 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善や適切な学習評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間で生徒の実態(アセスメント)や目標、各教科等の関連性を共通理解するとともに新学習指導要領に基づいたPDCAサイクルでの授業改善を行った 	教務研修課
特別支援教育に関する専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家等を活用した教職員研修の充実 ・専門研修等の伝達やそれに連動したOJTの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が研修等で学んだことを生徒の指導に活かすことができた 	教務研修課

<連携>

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
生徒の個性を生かし多様な人々との協働を促す「共生・共育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎高校との実りある交流及び共同学習のためお互いの目標を明確にした事前・事後の打ち合わせの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎高校との交流及び共同学習で互いを理解、尊重し、自ら協働的な活動に参加する生徒を育んだ 	交流担当 教務研修課 学部
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て行う作業学習や校外学習など、地域の人と関わり、協働する場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人や関わる人々の共生・共育についての理解や意識が高まるよう教職員が目標を共有し連携、協働した 	
保護者、地域関係機関との行動連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して地域福祉に関する情報提供の場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路や地域福祉に関する保護者の意識が高まった 	連携進路課 学部
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議や連絡協議会の参加等を通して教職員が関係機関と関わる場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育や生徒への理解が地域や関係機関に広がった 	
特別支援教育のセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市町教委、小中学校、高等学校等とつながる機会の設定や理解啓発活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校等に機能が周知され、児童生徒、学校等への支援実績を積み重ねた 	連携進路課 企画

<チーム学校>

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
働きがいのある学校にするための業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を果たし、仲間とともに高め合い、支え合うチームとしての協働体制の醸成 ・教職員個々のタイム・マネジメントの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が役割を理解した協働、タイム・マネジメント、援助要請等を適切に行うことでの業務改善に取り組む、効果的な指導につながった 	企画 学部 運営委員会
信頼される学校づくりのための意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者、地域、関係機関との学校教育目標の共有 ・所属意識を高める不祥事根絶や交通事故防止研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が分校の価値や所属意識を感じるとともに、不祥事、交通加害事故、交通違反ゼロに取り組んだ 	

4 監査対象期間における特色ある取組
【令和3年度】

取組概要	成果及び課題
<p>○オリンピック・パラリンピックなど、スポーツを通じた教育の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック観戦に向けたパラスポーツ選手や競技に触れる機会 ・生涯スポーツや健康づくり、目標達成の経験につながる様々なスポーツの体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応のためパラリンピックの観戦はかなわなかったが、後日パラアスリートの山本篤選手を迎えて講義や義足体験等を行うことができた ・学んだことを生かし松崎高校の生徒と一緒にボッチャやグラウンドゴルフなどのスポーツで交流することができた ・実業団の陸上選手と一緒に体を動かすことで、生徒が新たな発見や目標を持つことができた ・県の事業などを活用したが、自校のみで開催するのは予算の面で難しい
<p>○生徒の自己の身体や心の状態の理解と健康づくりの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が参加する定期的な保健授業や外部の専門家を講師とする授業の実施 ・松崎高校との合同での生徒によるアボちゃん（献血）サポーターの取組 ・生徒や保護者、教職員、医師が参加する学校保健委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態はさまざまであるが、研修や自立活動を通し意識的に指導することで個々に成長がみられた ・引き続き教職員で共通理解するとともに生徒の自己理解を図り、タイミングの良い支援を行っていく ・保護者や外部の指導者、松崎高校生などに関わりながら活動することで生徒の意識が高まった ・地域の専門家や関係機関、松崎高校からの積極的な協力を得られている
<p>○主体的な学びを支援する授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分校外の助言者を招き授業改善を図る ・外部の研修に参加するとともに伝達講習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修課を中心に研修等を通して目標設定、支援、学習評価が充実し、作業学習では、生徒が「自分から、仲間と共に」学ぶ姿が増えた ・他の教科・領域でも生徒が「わかって」主体的に活動する授業づくりに取り組みたい ・コロナ禍で外部の研修が減少している中、オンラインなどの研修を活用した
<p>○共生・共育の充実 （「共生社会の実現」に向けた取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松崎高等学校との行事や授業などの交流及び共同学習による共生・共育の取組 ・松崎高校との共生・共育委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で直接交流や共同学習が難しくなったが、活動を紹介するスペースの設置など工夫して実施した ・年間3回の共生・共育の話し合いは、互いの理解や新たな交流の在り方を探る機会となった
<p>○地域とつながる教育の充実 （校訓「地域に学び 地域に生きる人」の育成や「社会に開かれた学校」の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行う作業学習や校外学習など、地域の人と関わり、協働する場の設定 ・「作業学習」や「総合的な探究の時間」などでの地域で地域の人と関わる学習 ・職場実習、桑葉、桜葉、棚田の活動避難地の整備、小学校等花壇の 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で学ぶことで「総合的な探究の時間」の地域のことを学ぶ学習での理解が深まった ・コロナ禍による活動の制限があり、例年どおりの活動は難しくなったが、間接的に地域の人と関わるなど工夫したことで、分校の理解が広がり、協力を得られた ・ZoomなどICT機器を活用した取組ができた

整備、ベンチの設置などの取組、 作業製品の販売 ・「西豆学」の発表における松崎 町・西伊豆町の小・中学校や高校 との関わり	
---	--

【令和4年度】

取組概要	成果と課題
○生徒が安全で安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎高校と協働の職員防災、防犯研修 ・松崎高校と協働の防災訓練 ・外部講師を招いた防災学習や講座の実施
○学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画などを活用した、個別最適な学び(個に応じた指導)やカリキュラム・マネジメントの取組 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善や適切な学習評価 ・「生徒が自ら学び自己評価できる指導の充実」をテーマに取組
○「共生・共育」の充実 ・松崎高等学校との行事や授業などの交流及び共同学習による共生・共育の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎高校との実りある交流及び共同学習のためお互いの目標を明確にした事前・事後の打ち合わせの実施 ・対面式、双獅祭(文化祭)、体育祭、マラソン大会、球技大会などの行事 ・音楽、理科、体育、美術、総合的な探究の時間での交流授業など ・生徒会活動やアボちゃんサポーターなどでの協働体験
○外部人材の活用 ・教科等指導における専門家の活用 ・部活動における地域の指導者の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎高校の教員による教科等のアドバイス ・防災や保健、地域学習(棚田)、薬学講座、交通安全教室、進路学習、陶芸・農業の専門家の指導、プロの音楽体験、スポーツ指導など ・書道や美術の部活動に講師による専門的な指導 ・生徒の実態に合わせた支援など教職員との協働
○地域とつながる教育の充実 「共生社会の実現」に向けた取組 (生徒の個性を生かし多様な人々との協働を促す取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイズコロナ時代を見据えた活動の再開 ・地域で学ぶことで「総合的な探究の時間」の地域のことを学ぶ学習での理解 ・地域との関わりで、分校の理解を得る ・ZoomなどICT機器を活用した取組
○特別支援教育のセンター的機能の充実 (地域の特別支援教育を支える特別支援学校としての取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内(下田市、松崎町、南伊豆町、西伊豆町)などの特別支援教育に係る研修会や会議への協力 ・保護者、市町担当者、福祉機関、相談機関、進路先(実習先)、児童相談所などとの行動連携の推進 ・「学校だより」「連携リーフレット」作成、配布等による情報提供や理解啓発活動 ・教職員が分校の価値や地域からの期待、所属意識を感じる機会の創出

5 教職員について

(1) 令和3年度異動状況

(単位:人)

職名 区分	本務職員							会計年度任用職員				合計	
	教育職員				行政職員			本務計	教諭(臨)	養護教諭(任)	非常勤労務職員		小計
	副校長	教頭	教諭	小計	主任	主事	小計						
転出者		1	2	3		1	1	4				0	4
退職者				0			0	0	1			1	1
転入者	1		1	2	1		1	3				0	3
新任者				0			0	0				0	0
再任用(新任)				0			0	0				0	0
差引増減	1	△1	△1	△1	1	△1	0	△1	△1	0	0	△1	△2

(2) 現員数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

職名 区分	本務職員						会計年度任用職員			合計
	教育職員			行政職員			養護教諭(任)	非常勤労務職員	小計	
	副校長	教諭	小計	主任	小計	本務計				
男	1	4	5		0	5			0	5
女		4	4	1	1	5	1	1	2	7
計	1	8	9	1	1	10	1	1	2	12

(3) 健康管理について

【令和3年度】

ア 健康管理の推進

全ての教職員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診するよう健康診断を実施し、再検査や精密検査が必要な職員には受診を勧め、すべて受診している。

職員の健康講座も夏と冬に開催した。

毎週水曜日を定時退勤日とし、各自のワーク・ライフバランスの意識の向上を図っている。

日常的には、職員安全衛生委員会をとおり、年間を通じた健康情報の発信、啓発、メンタルヘルスケアを行った。

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

全ての教職員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診するよう健康診断を実施し、再検査や精密検査の方には受診を勧めており、再検査受診率も毎年100%である。

職員の健康講座を夏と冬に開催し、夏に開催したトレーニングを続けている職員もいる毎週水曜日を定時退勤日とし、管理職が率先して帰りやすい雰囲気づくりなどをし、各自のワーク・ライフバランスの意識の向上を図っている。

日常的には、職員安全衛生委員会を年間通して行っているが、教職員の健康不安などを聴きながら、教職員に沿った健康情報の啓発、メンタルヘルスケアを今後も行っていく必要がある。

(4) 教職員の研修について

【令和3年度】

ア 研修目標

学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業の改善に資する研修を推進する

イ 研修テーマ

「主体的に活動するためのできる状況づくり」

ウ 研修内容

各作業班（木工班、陶芸班、農園芸班）の研究授業を行った。指導案検討では、日々の姿から目標や支援が適しているか話し合い、本時に生かすことができた。

授業を参観してグループワークを行うことで、より実態にせまった目標や支援について話し合うことができた。

アセスメントシートを活用し、生徒の実態、目標、効果的な支援を検討した。成果は、経過を追って実態を記録することで変容が明らかになったこと、教員間で共有ができたこと、必要な支援と不必要な支援が整理できたこと等が挙げられた。

課題は、日常的に使用ができなかったことである。

作業部会や作業の準備時間等に授業の振り返りをする時間を設けて、活用していきたい。

単元カードに生徒の「できる状況づくりの教科ポイント」を明記した。できる状況づくりの視点として「活動設定の工夫」「環境設定の工夫」「教材教具の工夫」「働きかけの工夫」を挙げた。4つの視点から支援の見える化を行ったことで、それぞれの視点で意識しながら授業づくりをすることができた。

生徒が自分に任された活動に対し、意欲を持ち、自信を付けながら作業に取り組み、より良い作業製品や作業内容を目指して取り組む姿こそが生徒の主体的に取り組む姿につながり、生徒が、自分でできることが増えると自分から動いたり、別の事にも挑戦してみようとしたりすることが分かった。

目に見える姿だけでなく、生徒が思考して活動に取り組むことができるような仕掛けづくりを今後もしていきたい。

【令和4年度】

ア 研修目標

学校教育目標の実現を目指し、日々の教育実践と授業の改善に資する研修を推進する

イ 研修テーマ

「自ら学び、自己評価できる指導の充実」

ウ 研修内容

生徒が自分の目標を意識して学び、振り返って自己評価できるような目標の立て方や評価の仕方について研修に取り組む。

職業を窓口とし、職場実習や生活の様子から実態を把握し、適切な目標設定の視点を探っていく。

日々の指導や生徒のあらわれを多面的に見取るため、教科会やケース検討会、学年部会の機会を大切に、個別の指導計画（教科別シート）に記録していく。また、週1回に行う帰りの打ち合わせでも生徒のあらわれを伝え合い、常に新しい情報を共有していく。

各学年1回ずつ授業を公開する。授業研究前には、指導案を検討する時間を設け、実態から目標の立て方について話し合い、改善をする。付箋に記入しながら参観し、授業研究後に付箋を用いてグループワークをする。生徒の様子から生徒が目標を意識するための仕掛けや自己評価するための仕掛けについて話し合う。

助言者を招き多面的な視点から校内研修についてアドバイスをいただく。

進路連携課と相談しながら、授業の中でキャリア・パスポートを活用する。生活や実習等のできることで、課題を書き、適切な目標を立てるようにする。

6 防災対策について

【令和3年度】

ア 指導目標

災害時における緊急体制の構築と災害に備えての環境づくりに努める。

イ 取組内容

- ・実践的な災害対応研修や津波対応訓練、対応マニュアルでの確認を全職員で実施
- ・危機管理マニュアルを県推奨型に改善、運用
- ・松崎高等学校との合同訓練の実施、避難時の移動状況を共有、煙体験を実施
- ・地域の災害危険予想マップを活用し、生徒の学習教材に応用
- ・生徒が居住する地域の防災状況の把握
- ・校外学習時の防災の訓練の実施

【令和4年度】

ア 指導目標

- ・災害時における緊急体制の構築と災害に備えての環境づくりに努める
- ・生徒に防災、防犯の備えが身につき、命を守る体験的な学習を実施する

イ 取組内容

- ・災害時緊急対応班に分かれての避難所想定研修
- ・松崎高等学校との合同不審者対応訓練
- ・不審者対応マニュアル改定、傷病者発生時等の対応マニュアル改定
- ・校内津波対応訓練、松崎高等学校との合同土砂災害、火災対応訓練
- ・COCOO活用、安否確認訓練
- ・教員AED研修、生徒AED使用学習
- ・防災備品、備蓄品の整備

7 学校開放について

【令和3年度】

学校施設開放 実績なし

【令和4年度】

学校施設開放 実績なし

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
<p>学校教育に関する こと</p>	<p>教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、 第77条、） 学校教育法施行規則 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 学校保健安全法（第5条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別指導委員会規則 静岡県立特別支援学校学則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領</p>
<p>学校の管理・運営 に関すること</p>	<p>学校教育法（第76条、第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第7条、第8条、第9条、第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県立学校処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付 要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱</p>

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

(令和4年9月30日現在)

(1) 本校

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学 校 敷 地	10,003.37	10,003.37					
内 訳	校 舎 敷 地	7,103.37	7,103.37				
	運 動 場 敷 地	2,900.00	2,900.00				
	その他の敷地						
校 舎	建 2,543.79	2,543.79					
	延 7,271.20	7,271.20					
体 育 館	建 573.99	573.99					
	延 550.00	550.00					
その他の建物							

(2) 伊豆下田分校

(令和4年9月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学 校 敷 地	22.78			22.78			
内 訳	校 舎 敷 地	22.78		22.78			
	運 動 場 敷 地						
	その他の敷地						
校 舎	建 548.47	12.82		535.65			下田市立下田小学校校舎一部借受
	延 574.11	38.46		535.65			
体 育 館							
その他の建物							

(3) 伊豆松崎分校

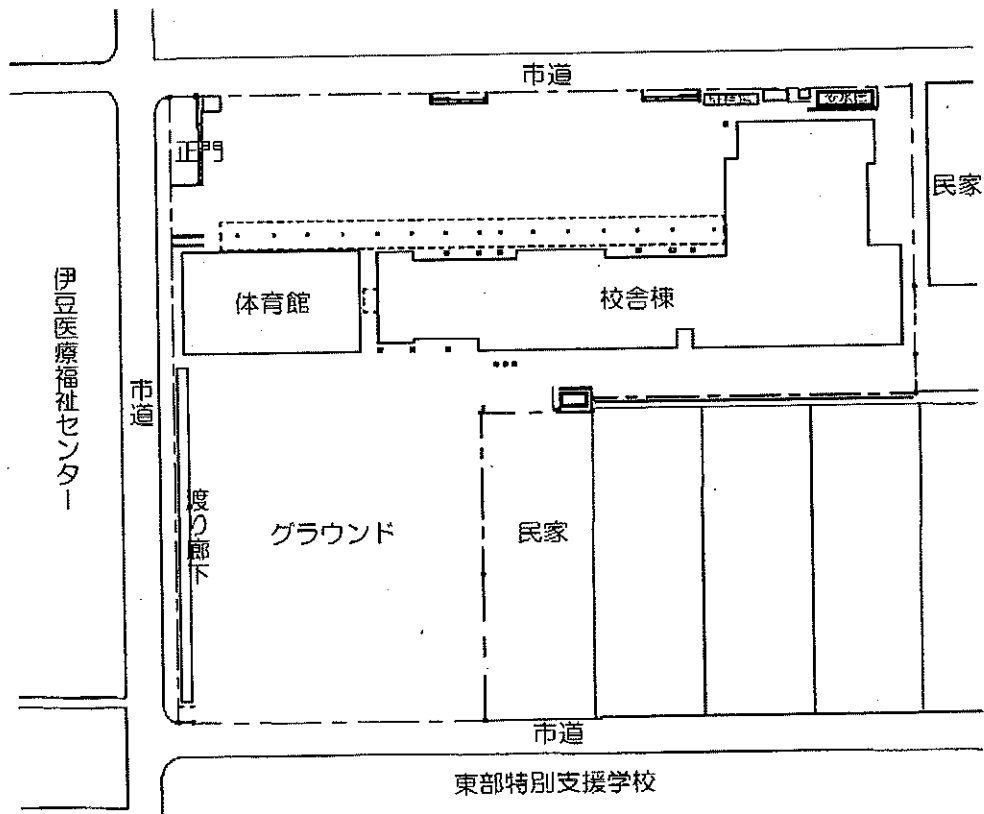
(令和4年9月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	436.97	436.97					
内 訳	校 舎 敷 地	436.97	436.97				作業学習用耕作地、 倉庫設置等
	運 動 場 敷 地						
	そ の 他 の 敷 地						
校 舎	建 518.11 延 518.11	518.11 518.11					松崎高校校舎使用 承認
体 育 館							
そ の 他 の 建 物							

2 配置・規模等

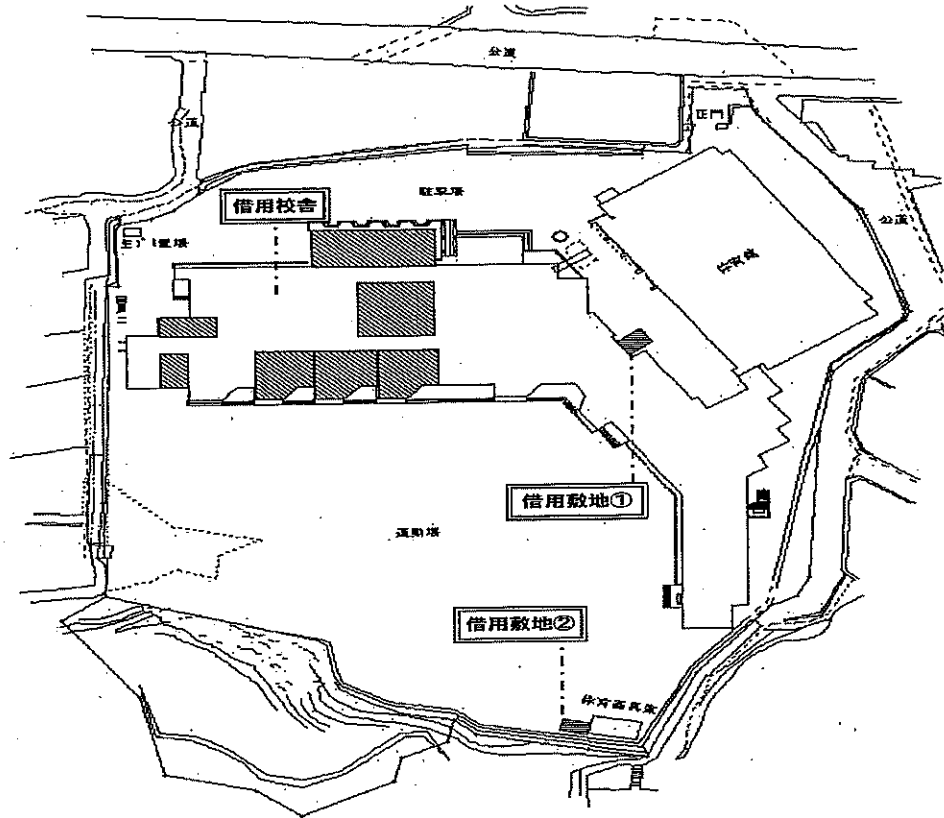
(1) 校舎等の配置図

〈本校〉

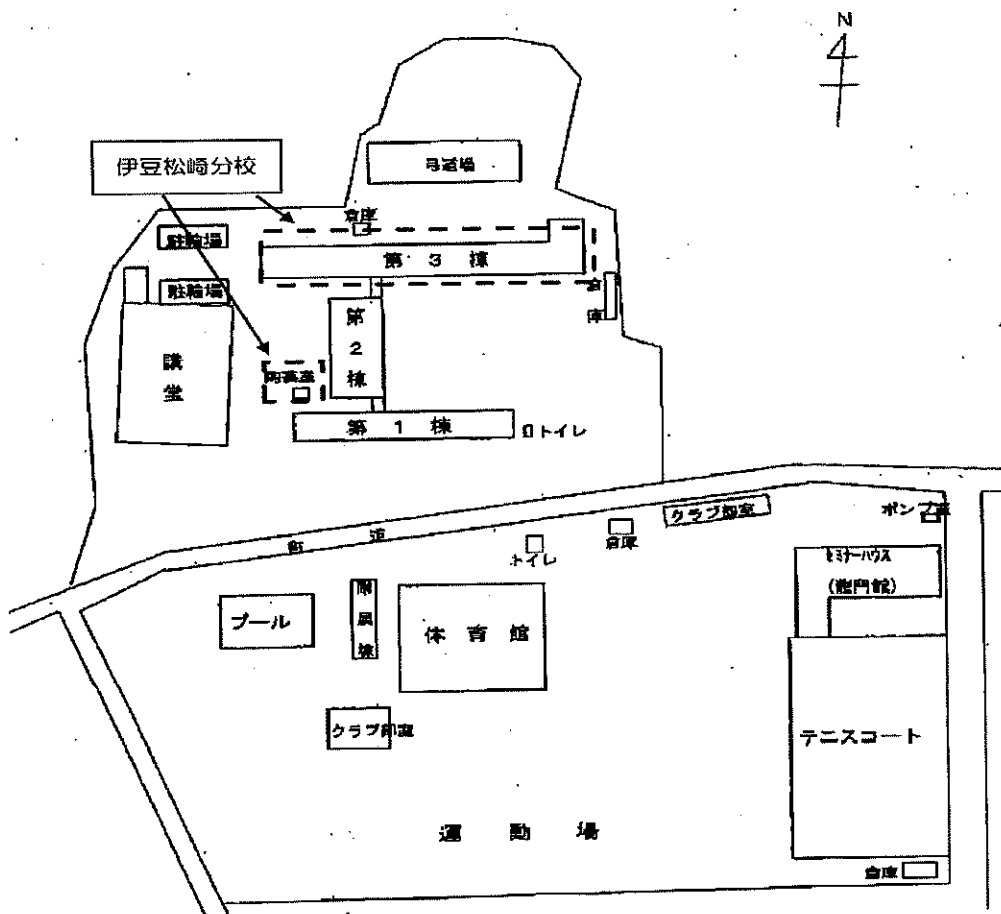


4

〈伊豆下田分校〉



〈伊豆松崎分校〉



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	本校	10,003.37m ²	7,271.20m ²	2,900.00m ²
	伊豆下田分校	22.78m ²	574.11m ²	0.00m ²
	伊豆松崎分校	436.97m ²	518.11m ²	0.00m ²
県平均		18,817.67m ²	6,361.36m ²	5,247.28m ²

在籍生徒調

(本校)

(令和4年9月30日現在)

学年	区分	学科別	小学部				中学部				高等部				計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年		入学者	-	8	8	16	-	13	8	21	21	14	5	19	-	35	21	56
		増加		1	0	1		0	0	0		0	0	0		1	0	1
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		現在		9	8	17		13	8	21		14	5	19		36	21	57
2年		入学者	-	11	5	16	-	9	3	12	30	15	7	22	-			
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0				
		減少		0	0	0		0	0	0		0	1	1				
		2年時当初		11	5	16		9	3	12		15	6	21		35	14	49
		増加		0	0	0		0	0	0		1	0	1		1	0	1
3年		入学者	-				-				18				-			
		増加																
		減少																
		2年時当初		6	3	9		6	2	8		10	3	13				
		増加		1	0	1		0	0	0		0	0	0				
		減少		1	0	1		0	0	0		1	0	1				
4年		3年時当初		6	3	9		6	2	8		9	3	12		21	8	29
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		4年時当初		6	3	9		6	2	8		9	3	12		21	8	29
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		現在		6	3	9		6	2	8		9	3	12		21	8	29
5年		入学者	-				-								-			
		増加																
		減少																
		2年時当初																
		増加																
		減少																
		3年時当初																
		増加																
		減少																
		4年時当初		9	1	10												
6年		入学者	-				-								-			
		増加																
		減少																
		2年時当初																
		増加																
		減少																
		3年時当初																
		増加																
		減少																
		4年時当初																
合計		5年時当初		9	1	10										9	1	10
		増加		0	0	0										0	0	0
		減少		0	0	0										0	0	0
		現在		9	1	10										9	1	10
		入学者	-				-									-		
		増加																
		減少																
		2年時当初																
		増加																
		減少																
3年時当初																		
増加																		
減少																		
4年時当初																		
増加																		
減少																		
5年時当初		10	4	14														
増加		1	0	1														
減少		0	0	0														
6年時当初		11	4	15											11	4	15	
増加		0	0	0											0	0	0	
減少		0	0	0											0	0	0	
現在		11	4	15											11	4	15	
合計		-	52	31	83	-	28	13	41	-	39	14	53	-	119	58	177	

在籍生徒調

(伊豆下田分校)

(令和4年9月30日現在)

学年	区分	学科別	小学部				中学部				計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年		入学者	-	2	0	2	-	0	1	1	-	2	1	3
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		現在		2	0	2		0	1	1		2	1	3
2年		入学者	-				-				-			
		増加												
		減少												
		2年時当初		2	0	2		2	0	2		4	0	4
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0
現在		2	0	2		2	0	2		4	0	4		
3年		入学者	-				-				-			
		増加												
		減少												
		2年時当初		1	0	1								1
		増加												
		減少												
3年時当初		2	0	2		3	0	3		5	0	5		
増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		
減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		
現在		2	0	2		3	0	3		5	0	5		
4年		入学者	-				-				-			
		増加												
		減少												
		2年時当初												
		増加												
		減少												
		3年時当初												
		増加												
減少														
4年時当初		1	1	2						1	1	2		
増加		0	0	0						0	0	0		
減少		0	0	0						0	0	0		
現在		1	1	2						1	1	2		
5年		入学者	-				-				-			
		増加												
		減少												
		2年時当初												
		増加												
		減少												
		3年時当初												
		増加												
減少														
4年時当初														
増加														
減少														
5年時当初		0	1	1						0	1	1		
増加		0	0	0						0	0	0		
減少		0	0	0						0	0	0		
現在		0	1	1						0	1	1		
6年		入学者	-				-				-			
		増加												
		減少												
		2年時当初												
		増加												
		減少												
		3年時当初												
		増加												
		減少												
		4年時当初												
増加														
減少														
5年時当初														
増加														
減少														
6年時当初		2	2	4						2	2	4		
増加		0	0	0						0	0	0		
減少		0	0	0						0	0	0		
現在		2	2	4						2	2	4		
合計			9	4	13		5	1	6		14	5	19	

在 籍 生 徒 調
(伊豆松崎分校) (令和4年9月30日現在)

学年	学科別 区分		高 等 部				計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		9	3	3	6	-	3	3	6
		増 加		0	1	1		0	1	1
		減 少		0	0	0		0	0	0
現 在 者			3	4	7		3	4	7	
2年	入 学 者		9	4	2	6	-	4	2	6
		増 加		0	0	0		0	0	0
		減 少		0	0	0		0	0	0
	2年時当初			4	2	6		4	2	6
		増 加		0	0	0		0	0	0
		減 少		0	0	0		0	0	0
現 在 者			4	2	6		4	2	6	
3年	入 学 者		9	4	3	7	-	4	3	7
		増 加		0	0	0		0	0	0
		減 少		1	0	1		1	0	1
	2年時当初			3	3	6		3	3	6
		増 加		0	0	0		0	0	0
		減 少		0	0	0		0	0	0
	3年時当初			3	3	6		3	3	6
		増 加		0	0	0		0	0	0
減 少			0	0	0		0	0	0	
現 在 者			3	3	6		3	3	6	
合 計				10	9	19		10	9	19

入学志願者及び入学者数調

(本校)

区 分		令和3年度	令和4年度
学 科 別		高等部	高等部
生徒定員 (A)		30	21
募集者数 (B)		30	21
志願者数	男	15	14
	女	7	5
	計 (C)	22	19
受検者数	男	15	14
	女	7	5
	計 (D)	22	19
合格者数	男	15	14
	女	7	5
	計 (E)	22	19
志願倍率 (C) / (B)		0.73	0.90
受検倍率 (D) / (B)		0.73	0.90
入学者数	男	15	14
	女	7	5
	計 (F)	22	19
充足率 (F) / (A)		0.73	0.90

入学志願者及び入学者数調

(伊豆松崎分校)

区 分		令和3年度	令和4年度
学 科 別		高等部	高等部
生徒定員 (A)		9	9
募集者数 (B)		9	9
志願者数	男	4	3
	女	2	3
	計 (C)	6	6
受検者数	男	4	3
	女	2	3
	計 (D)	6	6
合格者数	男	4	3
	女	2	3
	計 (E)	6	6
志願倍率 (C) / (B)		0.67	0.67
受検倍率 (D) / (B)		0.67	0.67
入学者数	男	4	3
	女	2	3
	計 (F)	6	6
充足率 (F) / (A)		0.67	0.67

卒業生の動向調

<本校>

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		10			10
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上記以外※			4		4
不詳・死亡					
計(卒業生総数)		10	4		14

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			4		4
(うち就労系支援事業利用者)		0	(3)	0	(3)
医療機関					
計			4		4

卒業生の動向調

<伊豆下田分校>

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		1			1
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上 記 以 外 ※					
不詳・死亡					
計 (卒業生総数)		1			1

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設					
(うち就労系支援事業利用者)		0	0	0	0
医療機関					
計					

卒業生の動向調

<伊豆松崎分校>

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等			1		1
就 職			1		1
上 記 以 外 ※			3		3
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)			5		5

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			3		3
① (うち就労系支援事業利用者)		0	0	0	0
医療機関					
計			3		3

生徒の状況

(本校)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

市町名	三島市	函南町	伊豆の国市	伊豆市	沼津市	長泉町	熱海市	合計
児童生徒数	101	19	38	14	1	3	1	177
構成比%	57.1%	10.7%	21.5%	7.9%	0.6%	1.6%	0.6%	100.0%

(2) 通学方法

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	徒歩	自家用車	JR・私鉄	合計
児童生徒数	100	4	44	29	177
構成比%	56.5%	2.3%	24.8%	16.4%	100.0%

2 部(クラブ)の加入状況

(高等部)

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分		ダンス部	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1	1		3
男子	1年	2	4	1	7	14
	2年	6	4	1	5	16
	3年	1	1	1	6	9
	計(A)	9	9	3	18	39
	構成比	23.1%	23.1%	7.7%	46.1%	100.0%
女子	1年	0	0	0	5	5
	2年	2	3	1	0	6
	3年	1	1	1	0	3
	計(B)	3	4	2	5	14
	構成比	21.4%	28.6%	14.3%	35.7%	100.0%
合計	(A+B)	12	13	5	23	53
	構成比	22.6%	24.5%	9.5%	43.4%	100.0%

※ボランティア部については全員加入

3 障害別児童生徒数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	7	7	4	10	8	5	41	10
	重複障害	10	9	5	6	2	10	42	15
	合計	17	16	9	16	10	15	83	25
中学部	単一障害	14	9	7	/	/	/	30	7
	重複障害	7	3	1	/	/	/	11	5
	合計	21	12	8	/	/	/	41	12
高等部	単一障害	17	19	12	/	/	/	48	6
	重複障害	2	3	0	/	/	/	5	2
	合計	19	22	12	/	/	/	53	8

4 起因疾患別児童生徒数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
小学部	8	18	46	1	1	0	18	92
中学部	2	10	27	1	1	0	0	41
高等部	6	9	25	2	0	1	17	60
計	16	37	98	4	2	1	35	193

生徒の状況

(伊豆下田分校)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

市町名	下田市	伊東市	東伊豆町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町	合計
児童生徒数	10	1	3	1	4	0	19
構成比%	52.6%	5.3%	15.8%	5.3%	21.0%	0%	100.0%

(2) 通学方法

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	徒歩	自家用車	合計
児童生徒数	8	1	10	19
構成比%	42.1%	5.3%	52.6%	100.0%

2 部(クラブ)の加入状況

(中学部) 該当なし

3 障害別児童生徒数

(伊豆下田分校)

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	0	1	0	1	0	2	4	2
	重複障害	2	1	2	1	1	2	9	4
	合計	2	2	2	2	1	4	13	6
中学部	単一障害	0	1	2	/	/	/	3	1
	重複障害	1	1	1	/	/	/	3	1
	合計	1	2	3	/	/	/	6	2

4 起因疾患別児童生徒数

(伊豆下田分校)

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	脳性疾患	染色体異常	自閉 スペクトラム症	その他の 知的障害	計
小学部	2	4	4	3	13
中学部	2	0	1	3	6
計	4	4	5	6	19

生徒の状況

(伊豆松崎分校)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和4年9月30日現在) (単位:人)

市町名	松崎町	下田市	南伊豆町	西伊豆町	伊豆市	合計
児童生徒数	1	11	2	4	1	19
構成比%	5.3%	57.9%	10.5%	21.0%	5.3%	100%

(2) 通学方法 (令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	バス・徒歩 (自転車)	バス・自家用車	自動車	徒歩	合計
児童生徒数	14	4	0	1	19
構成比%	73.7%	21.0%	0.0%	5.3%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(高等部) (令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分		地域活動部 (運動部兼文化部)	未加入者	計
部(クラブ)数		1		1
男子	1年	3	0	3
	2年	4	0	4
	3年	3	0	3
	計(A)	10	0	10
	構成比	100.0%	0.0%	100.0%
女子	1年	2	2	4
	2年	1	1	2
	3年	3	0	3
	計(B)	6	3	9
	構成比	66.7%	33.3%	100.0%
合計(A+B)		16	3	19
構成比		84.2%	15.8%	100.0%

3 障害別児童生徒数

(高等部) (令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	1年	2年	3年	計	学級数
単一障害	7	6	6	19	3
重複障害					
計	7	6	6	19	3

4 起因疾患別児童生徒数

(令和4年9月30日現在) (単位:人)

区分	脳性疾患	染色体異常	自閉スペクトラム症	その他の知的障害	計
高等部	0	0	7	12	19
計	0	0	7	12	19

保管現金有高調

(令和4年度)

(令和4年9月30日現在)

現金保管者	区 分	金 額 (円)
静岡県立伊豆の国特別支援学校 校長	駐車料金等継続的資金前渡	9,960

預 金 調

(令和4年9月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	□□□	伊豆の国特別支援学校 資金前渡者 早田 公子	0	給料及び資金 前渡金の受領
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	□□□	自振口 伊豆の国特別支援学校 資金前渡者 早田 公子	0	電気料等自動 振替
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	□□□	伊豆の国別支援学校 就学奨励費 代理受領者 早田 公子	0	就学奨励費の 代理受領
残 高 合 計				0	

郵券等受払調

(令和4年9月30日現在)

(本校)

(単位：枚、円)

区分	種類	令和3年度						令和4年度						差引現在高	概要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出					
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数	金額
郵券	140円券	0	0	10	1,400	10	1,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	文書 送 用
	120円券	0	0	10	1,200	3	360	7	840	0	0	3	360	4	480		
	94円券	0	0	10	940	5	470	5	470	10	940	0	0	15	1,410		
	84円券	0	0	30	2,520	30	2,520	0	0	50	4,200	30	2,520	20	1,680		
計			0	6,060		4,750		1,310		5,140		2,880		3,570			

郵券等受払調

(令和4年9月30日現在)

(伊豆下田分校)

(単位：枚、円)

区分	種類	令和3年度						令和4年度						差引現在高	概要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
郵券	レターバックプラス	0	0	0	0	0	0	0	8	4,160	2	1,040	6	3,120	文書 送 用	
	レターバックライト	0	0	55	20,350	49	18,130	6	2,220	40	14,800	35	12,950	11		4,070
	210円券	0	0	20	4,200	6	1,260	14	2,940	0	0	3	630	11		2,310
	120円券	0	0	50	6,000	24	2,880	26	3,120	0	0	15	1,800	11		1,320
	84円券	0	0	140	11,760	101	8,484	39	3,276	20	1,680	38	3,192	21		1,764
	10円券	0	0	100	1,000	40	400	60	600	0	0	24	240	36		360
計			0	43,310		31,154		12,156		20,640		19,852		12,944		

郵券等受払調

(令和4年9月30日現在)

(伊豆松崎分校)

(単位：枚、円)

区分	種類	令和3年度						令和4年度						差引現在高	概要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
郵券	レターバック	0	0	3	1,560	0	0	3	1,560	0	0	0	0	3	1,560	文書 送 用
	レターバックライト	0	0	7	2,590	1	370	6	2,220	0	0	3	1,110	3	1,110	
	210円券	0	0	10	2,100	7	1,470	3	630	20	4,200	8	1,680	15	3,150	
	120円券	0	0	50	6,000	27	3,240	23	2,760	0	0	16	1,920	7	840	
	84円券	0	0	230	19,320	183	15,372	47	3,948	50	4,200	62	5,208	35	2,940	
	10円券	0	0	70	700	40	400	30	300	30	300	30	300	30	300	
	2円券	0	0	30	60	24	48	6	12	0	0	2	4	4	8	
計			0	32,330		20,900		11,430		8,700		10,222		9,908		

材 料 品 受 払 調

(令和4年9月30日現在)

品名	区分	令和3年度						令和4年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額			
SPF		0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	20	21,600円	20	21,600円	0	0円	本校
エゾ松材		0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	60	31,740円	60	31,740円	0	0円	本校
寄木パーツ		0	0円	5,000	22,880円	5,000	22,880円	0	0円	5,000	23,100円	5,000	23,100円	0	0円	本校
つや消レウッドビーズ		0	0円	4	5,200円	4	5,200円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
ウッドビーズ		0	0円	2	2,600円	2	2,600円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
黒天目釉		0	0円	3	3,564円	3	3,564円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
織部釉		0	0円	2	2,376円	2	2,376円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
黄瀬戸釉		0	0円	2	2,376円	2	2,376円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
なまこ釉		0	0円	3	3,861円	3	3,861円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
うのふ釉		0	0円	4	5,148円	4	5,148円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
白土		0	0円	6	14,124円	6	14,124円	0	0円	5	11,770円	5	11,770円	0	0円	松崎分校
SN-アルミナ		0	0円	2	1,100円	2	1,100円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
マロン釉		0	0円	1	1,287円	1	1,287円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
やむらん釉業ブルー		0	0円	2	3,520円	2	3,520円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	松崎分校
計		0	0円	5,031	68,036円	5,031	68,036円	0	0円	5,085	88,210円	5,085	88,210円	0	0円	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和3年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	52,870,642	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	13,171,400	0
計					66,042,042	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	4,774,000	0
計					4,774,000	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	597,300	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	6,591,970	0
計					7,189,270	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	90	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	2,625,769	
計					2,625,859	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年度)

(令和4年9月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	21,662,630	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	5,473,600	0
計					27,136,230	0
(14) 工事請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,170,150	0
計					1,170,150	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,363,646	0
計					1,363,646	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和3年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約締 結方法	契約 期間	支出 年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食調理 業務	株式会社 ユアーズ 静岡	42,559,402	30,140,000	0	30,140,000	一般	3.4.1 ～ 5.7.31	3.5.31	1,063,700	学校給食 調理業務	3 長期
									3.6.30	1,076,900		
									3.7.30	1,076,900		
									3.8.31	1,076,900		
									3.9.30	1,076,900		
									3.10.29	1,076,900		
									3.11.30	1,076,900		
									3.12.27	1,076,900		
									4.1.31	1,076,900		
									4.2.28	1,076,900		
									4.3.31	1,076,900		
									4.4.28	1,076,900		
									小計	12,909,600		
2	スクール バス輸送 業務	伊豆箱根 バス株式 会社営業 部	119,080,060	88,446,589	0	88,446,589	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	3.5.31	3,553,671	スクール バスの運 行	3 長期
									3.6.30	3,553,671		
									3.7.30	3,553,671		
									3.8.31	3,553,671		
									3.9.30	2,319,746		
									3.10.29	2,319,746		
									3.11.30	2,319,746		
									3.12.27	2,319,746		
									4.1.31	2,319,746		
									4.2.28	2,319,746		
									4.3.31	2,319,746		
									4.4.28	2,319,746		
									小計	32,772,652		
3	伊豆下田 分校スク ールバス 輸送業 務	株式会 社東海 バス下 田営業 所	55,443,740	28,488,240	0	28,488,240	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	3.5.31	791,340	スクール バスの運 行	3 長期
									3.6.30	791,340		
									3.7.30	791,340		
									3.8.31	791,340		
									3.9.30	791,340		
									3.10.29	791,340		
									3.11.30	791,340		
									3.12.27	791,340		
									4.1.31	791,340		
									4.2.28	791,340		
									4.3.31	791,340		
									4.4.28	791,340		
									小計	9,496,080		
4	新型コ ロナウ イルス 感染 症対 策に 伴う スク ール バス 輸送 業 務	伊豆箱 根バス 株式 会社 営業 部	5,711,310	5,711,310	0	5,711,310	随契	3.8.30 ～ 3.12.24	3.9.30	123,310	スクール バスの運 行(増車)	随契 2号 (不適)
									3.10.29	1,397,000		
									3.11.30	1,397,000		
									3.12.27	1,397,000		
									4.1.31	1,397,000		
小計	5,711,310											
5	新型コ ロナウ イルス 感染 症対 策に 伴う スク ール バス 輸送 業 務(そ の2)	伊豆箱 根バス 株式 会社 営業 部	3,525,500	3,525,500	0	3,525,500	随契	4.1.6 ～ 4.3.28	4.2.28	1,177,000	スクール バスの運 行(増車)	随契 2号 (不適)
									4.3.31	1,177,000		
									4.4.28	1,171,500		
									小計	3,525,500		
6	自動ド ア保 守管 理業 務	中日本 オート ド ア株式 会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	3.4.1 ～ 4.3.31	3.10.29	11,000	自動ド アの保 守及 び点 検	随契 1号 (少額)
									4.4.28	11,000		
									小計	22,000		
7	伊豆下 田分校 エレ ベーター 保 守管 理業 務	三菱電 機ビル テクノ サービ ス株式 会社 横浜支 社西 湘支 店	316,800	316,800	0	316,800	随契	3.4.1 ～ 4.3.31	3.7.9	26,400	エレベ ーター の保 守管 理業 務	随契 1号 (少額)
									3.7.30	26,400		
									3.8.31	26,400		
									3.8.31	26,400		
									3.9.30	26,400		
									3.10.29	26,400		
									3.11.30	26,400		
									3.12.27	26,400		
									4.1.31	26,400		
									4.2.28	26,400		
									4.3.31	26,400		
									4.4.28	26,400		
小計	316,800											

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
8	エレベーター保守管理業務	東芝エレベーター株式会社静岡支店	916,300	806,300	0	806,300	随契	3.6.1 ～ 4.3.31	3.7.30 3.8.31 3.9.30 3.10.29 3.11.30 3.12.27 4.1.31 4.2.28 4.3.31 4.4.28 小計	80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 806,300	エレベーターの保守管理業務	随契1号(少額)
9	防風防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	3.4.19 ～ 4.3.31	3.11.11 4.4.28 小計	42,900 56,100 99,000	厨房のゴミ、ゴミ等の駆除防除	随契1号(少額)
10	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	株式会社富士興産	運搬料(1回当たり)@8,800 処分料(1㎡当たり)@8,800	運搬料(1回当たり)@8,800 処分料(1㎡当たり)@8,800	0	運搬料(1回当たり)@8,800 処分料(1㎡当たり)@8,800	随契	3.4.6 ～ 3.4.30	3.6.25 3.10.19 小計	153,450 550 154,000	産業廃棄物の収集運搬処分	随契1号(少額)単価契約
11	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	有限会社荒川土建興業	66,000	66,000	0	66,000	随契	4.3.3 ～ 4.3.31	4.4.28 小計	66,000 66,000	産業廃棄物の収集運搬処分	随契1号(少額)
12	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	伊豆総業株式会社	146,300	146,300	0	146,300	随契	3.8.3 ～ 4.3.31	4.1.7 4.2.22 4.4.22 小計	41,800 41,800 62,700 146,300	産業廃棄物の収集運搬	随契1号(少額)
13	産業廃棄物(汚泥)処分業務	クリーンサービス株式会社	処分料(1kg当たり)@27.5	処分料(1kg当たり)@27.5	0	処分料(1kg当たり)@27.5	随契	3.8.3 ～ 4.3.31	4.1.7 4.2.25 4.4.26 小計	5,500 5,500 5,500 16,500	産業廃棄物の処分	随契1号(少額)単価契約
	合計	13件								66,042,042		
参考1	警備業務	セコム株式会社		14,256,000	1,108,800	15,364,800		1.10.1 ～ 6.9.30			学校施設の機械警備	三島北
参考2	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器株式会社		7,598,624	-267,300	7,331,324		3.4.1 ～ 4.3.31			消防用設備の保守点検	三島北
参考3	自家用電気工作物保安業務	株式会社静岡ケイテクノ		1,240,800	0	1,240,800		3.4.1 ～ 4.3.31			校内電気工作物の保守点検	蕪山
参考4	可燃物収集運搬処理業務	株式会社マエダ美化		517,000	0	517,000		3.4.2 ～ 4.3.29			燃やせるゴミ、プラスチックゴミの収集運搬処分	蕪山
参考5	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	有限会社石橋修建築設計室		1,320,000	0	1,320,000		3.8.26 ～ 3.11.30			建築基準法第12条に基づく点検	伊豆中央
	計	5件										

委託料に関する調

(令和4年度)
(令和4年9月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理業務	株式会社ユアーズ静岡	42,559,402	30,140,000	0	30,140,000	一般	3.4.1 ～ 5.7.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 小計	1,076,900 1,076,900 1,076,900 1,076,900 1,076,900 5,384,500	学校給食調理業務	3 長期
2	スクールバス輸送業務	伊豆箱根バス株式会社営業部	119,080,060	88,446,589	0	88,446,589	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 小計	2,319,746 2,319,746 2,319,746 2,319,746 2,319,746 11,598,730	スクールバスの運行	3 長期
3	伊豆下田分校スクールバス輸送業務	株式会社東海バス下田営業所	55,443,740	28,488,240	0	28,488,240	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 小計	791,340 791,340 791,340 791,340 791,340 3,956,700	スクールバスの運行	3 長期
4	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	伊豆箱根バス株式会社営業部	5,288,250	5,288,250	0	5,288,250	随契	4.4.1 ～ 4.7.26	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 小計	1,320,000 1,320,000 1,320,000 1,328,250 5,288,250	スクールバスの運行(増車)	随契 2号 (不適)
5	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務(その2)	伊豆箱根バス株式会社営業部	5,640,800	5,640,800	0	5,640,800	随契	4.8.29 ～ 4.12.23	4.9.30 小計	184,800 184,800	スクールバスの運行(増車)	随契 2号 (不適)
6	自動ドア保守管理業務	中日本オート・ドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	4.4.1 ～ 5.3.31	小計	0	自動ドアの保守及び点検	随契 1号 (少額)
7	伊豆下田分校エレベーター保守管理業務	三菱電機ビルソリューションズ株式会社横浜支社西湘支店	343,200	343,200	0	343,200	随契	4.4.1 ～ 5.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 小計	28,600 28,600 28,600 28,600 28,600 143,000	エレベーターの保守管理業務	随契 1号 (少額)
8	エレベーター保守管理業務	東芝エレベーター株式会社静岡支店	967,560	967,560	0	967,560	随契	4.4.1 ～ 5.3.31	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 小計	80,630 80,630 80,630 80,630 80,630 403,150	エレベーターの保守管理業務	随契 1号 (少額)
9	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	4.4.8 ～ 5.3.31	小計	0	厨房のゴキブリ、鼠等の駆除防除	随契 1号 (少額)
10	厨房清掃業務	株式会社カンザイ	263,780	263,780	0	263,780	随契	4.6.29 ～ 5.3.31	4.9.22 小計	88,000 88,000	厨房の清掃	随契 1号 (少額)
11	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	三友水処理株式会社	146,300	145,200	0	145,200	随契	4.6.27 ～ 5.3.31	4.8.31 小計	83,600 83,600	産業廃棄物の収集運搬	随契 1号 (少額)
12	産業廃棄物(汚泥)処分業務	クリーンサービス株式会社	処分料(1kg当たり)@27.5	処分料(1kg当たり)@27.5	0	処分料(1kg当たり)@27.5	随契	4.7.4 ～ 5.3.31	4.8.31 小計	5,500 5,500	産業廃棄物の処分	随契 1号 (少額) 単価契約
	合計	12件								27,136,230		

整理 番号	委 託 業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム株式会社		14,256,000	1,108,800	15,364,800		1.10.1 ～ 6.9.30			学校施設 の機械警 備	三島北
参考2	消防用設 備等保守 点検業務	伊豆防災 機器株式 会社		7,893,864	0	7,893,864		4.4.1 ～ 5.3.31			消防用設 備の保守 点検	三島北
参考3	自家用電 気工作物 保安業務	株式会社 静岡ケイ テクノ		1,240,800	0	1,240,800		4.4.1 ～ 5.3.31			校内電気 工作物の 保守点検	菫山
参考4	可燃物収 集運搬処 理業務	株式会社 マエダ美 化		517,000	0	517,000		4.4.5 ～ 5.3.31			燃やせる ゴミ、プラ スチックゴ ミの収集 運搬処分	菫山
参考5	建築基準 法第12条 に基づく定 期点検業 務	有限会社 コーセイ 産業		1,080,640	0	1,080,640		4.7.11 ～ 4.10.31			建築基準 法第12条 に基づく 点検	伊豆中央
	計	5件										

補助金支出調

(令和3年度)

整理番号	対象事業名	交付先	補助の根拠	事業の実績	総事業費 円	補助金額 円	補助率	交付決定		交付		事業完了		摘要
								年月日	金額	年月日	金額	年月日	年月日	
1	県立学校行事キャンセル料支援事業費補助金	□□□□	県立学校行事キャンセル料支援事業費補助金交付要綱	令和3年度修学旅行のキャンセル料を支払った保護者への補助	90	90	定額	4.3.24	90	4.4.15	90	4.1.21	4.3.9	
	計	1件			90	90			90		90			

負担金支出調

(令和3年度)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担 根拠	事 業 内 容	負担金額	支 出 年月日
1	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給 食人件費等	1,428,510円	R3. 5. 28
2	東海地区特別支援学 校知的障害教育校長 会会費	東海地区特別支援 学校知的障害教育 校長会	規約に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	5,000円	R3. 7. 26
3	特別管理産業廃棄物 管理責任者講習会受 講料	公益財団法人日本 産業廃棄物処理振 興センター	開催要 項によ る	特別管理産業 廃棄物管理責 任者講習会受 講	13,800円	R3. 9. 29
4	全国特別支援学校知 的障害教育校長会会 費	全国特別支援学校 知的障害教育校長 会	会則に よる	知的障害教育 振興並びに会 員の研修	10,000円	R3. 9. 30
5	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給 食人件費等	1,168,459円	R3. 11. 30
	計	5件	/	/	2,625,769円	/

負 担 金 支 出 調

(令和4年度)

(令和4年9月30日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担 根拠	事 業 内 容	負担金額	支出 年月日
1	伊豆下田分校負担金	下田市教育委員会	協定書 による	光熱水費、給食 人件費等	1,347,646円	R4.5.31
2	全国特別支援学校知的 障害教育校長会会 費	全国特別支援学校 知的障害教育校長 会	会則に よる	知的障害教育振 興並びに会員の 研修	11,000円	R4.7.21
3	東海地区特別支援学 校知的障害教育校長 会会費	東海地区特別支援 学校知的障害教育 校長会	規約に よる	知的障害教育振 興並びに会員の 研修	5,000円	R4.7.29
	計	3件	/	/	1,363,646円	/

土 木 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	伊豆の国特別支援学校 グラウンド改修工事	伊豆の国市 寺家地内	円 4,356,000	円 3,850,000	円 0
		合 計	1件	4,356,000	3,850,000	0

事 調

(令和3年度)

額	契約 締結 方法	受 注 者	着 手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	摘要
計						
円 3,850,000	指名	加和太建設(株)	R3. 5. 25 R3. 6. 3	円 3,850,000	グラウンド端部掘削及び 盛土 グラウンド全体盛土	
3,850,000						

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	伊豆の国特別支援 学校壁出隅補強工 事	伊豆の国市寺家 地内	円 924,000	円 924,000	円 0
		合 計	1 件	924,000	924,000	0

事 調

(令和3年度)

額	契約 締結 方法	受注者	着手 完成(7月) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘 要
計							
円 924,000	随契	山本建設株	R4. 3. 24 R4. 3. 30	円 924,000	各階廊下、教 室等の壁出隅 の補強	—	随契 1号 (少額)
924,000				924,000			

公 有 財 産 調

(令和3年度)

区分	令和3年3月31日 現 在		増		減		令和4年3月31日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 0		千円 3,125,591		千円 ▲ 4,369		千円 3,121,222	
土 地	m ²		m ² 10,003.37	506,615	m ²		m ² 10,003.37	506,615	
立木竹	本		本 1,321	4,275	本		本 1,321	4,275	
建 物	m ²		m ² <u>3,130.60</u> 7,859.66	2,323,202	m ²	▲ 455	m ² <u>3,130.60</u> 7,859.66	2,322,747	
工作物	個		個 197	291,499	個	▲ 3,914	個 197	287,585	
普通財産		0		0		0		0	
土 地	m ²		m ²		m ²		m ² 0	0	
立木竹	本		本		本		本 0	0	
建 物	m ²		m ²		m ²		m ² 0	0	
工作物	個		個		個		個 0	0	
公有財産 に準ずる もの		0		163		0		163	
電 話 加入権	件		件 3	163	件		件 3	163	

公 有 財 産 調

(令和4年度)
令和4年9月30日現在

区分	令和4年3月31日 現 在		増		減		令和4年9月30日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産	千円	3,121,222	千円	0	千円	0	千円	3,121,222	
土 地	m ²	10,003.37	m ²		m ²		m ²	10,003.37	506,615
立木竹	本	1,321	本		本		本	1,321	4,275
建 物	m ²	3,130.60 7,859.66	m ²		m ²		m ²	3,130.60 7,859.66	2,322,747
工作物	個	197	個		個		個	197	287,585
普通財産	0		0		0		0		0
土 地	m ²		m ²		m ²		m ²	0	0
立木竹	本		本		本		本	0	0
建 物	m ²		m ²		m ²		m ²	0	0
工作物	個		個		個		個	0	0
公有財産 に準ずる もの	163		0		0		163		
電 話 加入権	件	3	件		件		件	3	163

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)

(令和4年9月30日現在)

区分	事業名又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
長期 継続 契約	スクールバス 輸送業務委託	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日)R3.4.1	円 88,446,589	32,772,652	27,836,952	27,836,985		
	伊豆下田分校 スクールバス 輸送業務委託	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日)R3.4.1	28,488,240	9,496,080	9,496,080	9,496,080		
	給食業務委託	給食の調理及び 配膳業務 (契約日)R3.4.1	30,140,000	12,909,600	12,922,800	4,307,600		
	カラー印刷機 賃貸借	カラー印刷機 1台の使用料 (契約日)R3.4.1	3,300,000	660,000	660,000	660,000	660,000	660,000
	電子複写機 賃貸借及び使用	電子複写機 1台の使用料 (契約日)R3.4.1	386,958	77,391	77,391	77,392	77,392	77,392
	電子複写機 賃貸借	分校電子複写機 2台の使用料 (契約日)R3.4.1	657,604	195,550	154,018	154,018	154,018	

行政財産貸付・使用許可調

(令和4年9月30日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使 用許可を受 けた者の氏 名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	伊豆の 国市寺 家235	学校 敷地	学校 敷地	電柱 1本	円 1,500	円 1,500	4.4.1 ～ 9.3.31	東京電力パ ワーグリッ ド(株)伊豆 支社長	電柱設置
合計								1,500			

主 要 備 品 調

(令和4年9月30日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額(円)	適用
	大・中	小					
1	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機 CMJ-40QE	毎日(年間188日) 給食調理	R3.2	4,491,300	20-005325
2	01-13	調理器具	コンビオープン ACO-202GS	毎日(年間188日) 給食調理	R3.2	2,838,000	20-005322
3	01-13	調理器具	ガス回転釜(タフコート) GHSX-30AS-SS	毎日(年間188日) 給食調理	R3.2	2,212,650	20-005320
4	01-13	調理器具	ガス回転釜(タフコート) GHSX-30AS-SS	毎日(年間188日) 給食調理	R3.2	2,212,650	20-005321
5	01-13	食品食器洗浄機	ラックコンベヤタイプ 自動食器洗浄機 SDR310GSH	毎日(年間188日) 給食食器洗浄	R3.2	1,851,300	20-005336
6	03-03	プロジェクター	プロジェクター	毎日(年間202日) 授業	R3.3	1,764,224	20-011909
7	01-04	移動書庫	移動書庫	毎日(年間365日) 書類保管	R3.3	1,716,000	20-006511
8	06-99	その他の諸機器	その他の諸機器 単相 200V 13kw	年間20回(60日) 伊豆松崎分校 作業学習	H24.3	1,680,000	11-020920
9	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式 ノート6台(＠115,811ソフト含む)等	毎日(年間202日) 伊豆松崎分校 授業	R2.1	1,460,921	19-003870
10	02-01	その他の情報処理機器	サーバ	毎日(年間365日) 伊豆下田分校 ネットワーク管理	H28.4	1,458,000	16-000027
11	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式 ノート6台(＠115,811ソフト含む)等	月4回(48日) 情報の授業	R2.1	1,261,920	19-003871
12	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式)	毎日(年間202日) 伊豆下田分校 授業	H28.3	1,101,600	15-005589
13	01-04	戸棚	収納ユニット ウチダ収納ユニット	毎日(年間365日) 調理室食器等保管	H15.10	1,027,000	03-003683
14	01-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 EW-1504N特	毎日(年間188日) 給食食器消毒	R3.2	870,100	20-005333
15	01-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 EW-1504N特	毎日(年間188日) 給食食器消毒	R3.2	870,100	20-005337
16	01-99	その他の庁用器具	校旗	年間5日 学校行事	R3.2	847,000	20-004661
17	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式	毎日(年間202日) 授業	R3.3	747,560	20-011850
18	01-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 EMK-1004N特	毎日(年間188日) 給食器具消毒	R3.2	735,900	20-005327
19	03-03	プロジェクター	プロジェクター	毎日(年間202日) 伊豆松崎分校 授業	R3.3	712,191	20-011892
20	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 HR-150CA-ML-4D4D	毎日(年間188日) 給食食材保管	R3.2	673,200	20-005309

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分		品名 (単位)	コーヒースタンド(個) 【本校・木工班】				寄木ストラップ(個) 【本校・木工班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	11	40	11	0	12	40	12
		計	0	11	40	11	0	12	40	12
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	11	40	11	0	12	40	12
		売払金額	0	4,400	16,000	4,400	0	1,800	8,000	1,800
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	11	40	11	0	12	40	12
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

区分		品名 (単位)	カップホルダー(個) 【本校・木工班】				なぎの葉トレイ(個) 【本校・木工班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	26	20	26	0	0	20	0
		計	0	26	20	26	0	0	20	0
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	26	20	26	0	0	20	0
		売払金額	0	2,600	2,000	2,600	0	0	4,000	0
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	26	20	26	0	0	20	0
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	スクエアトレー(個) 【本校・木工班】				ペンケース(個) 【本校・縫製班】			
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
数量・重さ(ア)									
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高(イ)	0	0	20	0	0	16	30	16
	計	0	0	20	0	0	16	30	16
単位数量(イ/ア)									
同前年比(%) (b-a)/a×100					0.0				
払高	売払数量	0	0	20	0	0	16	30	16
	売払金額	0	0	4,000	0	0	4,800	9,000	4,800
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	20	0	0	16	30	16
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0
摘要									

区分	品名 (単位)	コインケース(個) 【本校・縫製班】				名刺入れ(個) 【本校・縫製班】			
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
数量・重さ(ア)									
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高(イ)	0	11	10	11	0	9	5	9
	計	0	11	10	11	0	9	5	9
単位数量(イ/ア)									
同前年比(%) (b-a)/a×100					0.0				
払高	売払数量	0	11	10	11	0	9	5	9
	売払金額	0	3,300	3,000	3,300	0	4,500	1,500	4,500
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	11	10	11	0	9	5	9
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0
摘要									

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分		品名 (単位)	コースター(セット) 【本校・縫製班】				カードケース(個) 【本校・縫製班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	20	25	20	0	0	40	0
		計	0	20	25	20	0	0	40	0
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	20	25	20	0	0	40	0
		売払金額	0	2,000	2,500	2,000	0	0	4,000	0
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	20	25	20	0	0	40	0
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

区分		品名 (単位)	マスクケース(個) 【本校・縫製班】				クラフト紙ペーパーバッグ(セット) 【本校・紙工班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	0	10	0	0	18	0	18
		計	0	0	10	0	0	18	0	18
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	0	10	0	0	18	0	18
		売払金額	0	0	3,000	0	0	900	0	900
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	10	0	0	18	0	18
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分		英字新聞ペーパーバッグ(セット) 【本校・紙工班】				本校計				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	19	55	19	0	142	315	142	
	計	0	19	55	19	0	142	315	142	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	19	55	19	0	142	315	142	
	売払金額	0	950	550	950	0	25,250	57,550	25,250	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	19	55	19	0	142	315	142	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分		品名 (単位)	
		数量・重さ(ア)	
受高	前年度繰越高		
	本年度生産高(イ)		
	計		
単位数(イ/ア)			
同前年比(%) (b-a)/a×100			
払高	売払数量		
	売払金額		
	非売品 数量	分類換	
		管理換 その他	
	計		
残高又は繰越数量			
摘要			

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分		品名 (単位)	小皿(枚) 【伊豆松崎分校・陶芸班】				中皿(枚) 【伊豆松崎分校・陶芸班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	155	92	155	0	54	8	54
		計	0	155	92	155	0	54	8	54
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	155	92	155	0	54	8	54
		売払金額	0	7,750	4,600	7,750	0	10,800	1,600	10,800
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	155	92	155	0	54	8	54
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

区分		品名 (単位)	大皿(枚) 【伊豆松崎分校・陶芸班】				小鉢(枚) 【伊豆松崎分校・陶芸班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	33	11	33	0	227	84	227
		計	0	33	11	33	0	227	84	227
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	33	11	33	0	227	84	227
		売払金額	0	9,900	3,300	9,900	0	22,700	8,400	22,700
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	33	11	33	0	227	84	227
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	中鉢(枚) 【伊豆松崎分校・陶芸班】				玉ねぎ(個) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	153	59	153	0	48	0	48	
	計	0	153	59	153	0	48	0	48	
単位数量(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100										
払高	売払数量	0	153	59	153	0	48	0	48	
	売払金額	0	22,950	8,850	22,950	0	2,400	0	2,400	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	153	59	153	0	48	0	48	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分	品名 (単位)	サニーレタス(株) 【伊豆松崎分校・園芸班】				花苗(鉢) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	26	0	26	0	60	0	60	
	計	0	26	0	26	0	60	0	60	
単位数量(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100										
払高	売払数量	0	26	0	26	0	60	0	60	
	売払金額	0	3,900	0	3,900	0	6,000	0	6,000	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	26	0	26	0	60	0	60	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分		品名 (単位)	じゃがいも(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				ダイコン(本) 【伊豆松崎分校・園芸班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	98	130	98	0	72	0	72
		計	0	98	130	98	0	72	0	72
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	98	130	98	0	72	0	72
		売払金額	0	9,800	13,000	9,800	0	4,100	0	4,100
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	98	130	98	0	72	0	72
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

区分		品名 (単位)	マリーゴールド苗(鉢) 【伊豆松崎分校・園芸班】				ミニトマト(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】			
			2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a
		数量・重さ(ア)								
受高		前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0
		本年度生産高(イ)	0	48	460	48	0	25	0	25
		計	0	48	460	48	0	25	0	25
		単位数(イ/ア)								
		同前年比(%) (b-a)/a×100								
払高		売払数量	0	48	460	48	0	25	0	25
		売払金額	0	2,400	23,000	2,400	0	2,500	0	2,500
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	48	460	48	0	25	0	25
		残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0
		摘要								

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	ナス(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				丸大根(本) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	40	0	40	0	35	0	35	
	計	0	40	0	40	0	35	0	35	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	40	0	40	0	35	0	35	
	売払金額	0	4,000	0	4,000	0	1,750	0	1,750	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	40	0	40	0	35	0	35	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分	品名 (単位)	ブロッコリー(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				ホウレンソウ(束) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	11	0	11	0	14	0	14	
	計	0	11	0	11	0	14	0	14	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	11	0	11	0	14	0	14	
	売払金額	0	1,100	0	1,100	0	1,400	0	1,400	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	11	0	11	0	14	0	14	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	小ネギ(束) 【伊豆松崎分校・園芸班】				スナックエンドウ(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	20	0	20	0	0	40	0	
	計	0	20	0	20	0	0	40	0	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	20	0	20	0	0	40	0	
	売払金額	0	1,000	0	1,000	0	0	4,000	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	20	0	20	0	0	40	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分	品名 (単位)	そらまめ(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				ニンニク(袋) 【伊豆松崎分校・園芸班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	22	0	0	0	8	0	
	計	0	0	22	0	0	0	8	0	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	0	22	0	0	0	8	0	
	売払金額	0	0	2,200	0	0	0	1,600	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	22	0	0	0	8	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	ティッシュボックス(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				タッセル(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	18	3	18	0	16	1	16	
	計	0	18	3	18	0	16	1	16	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	18	3	18	0	16	1	16	
	売払金額	0	5,400	900	5,400	0	3,200	200	3,200	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	18	3	18	0	16	1	16	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分	品名 (単位)	野菜保存箱(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				道具箱(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	12	6	12	0	23	6	23	
	計	0	12	6	12	0	23	6	23	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	12	6	12	0	23	6	23	
	売払金額	0	6,000	3,000	6,000	0	6,900	1,800	6,900	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	12	6	12	0	23	6	23	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

生産物受払調

(令和4年9月30日現在)

区分	品名 (単位)	本立て(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				ガーデンフェンス(個) 【伊豆松崎分校・木工班】				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)										
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	22	1	22	0	20	5	20	
	計	0	22	1	22	0	20	5	20	
単位数(イ/ア)										
同前年比(%) (b-a)/a×100						0.0				
払高	売払数量	0	22	1	22	0	20	5	20	
	売払金額	0	6,600	300	6,600	0	6,000	1,500	6,000	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	22	1	22	0	20	5	20	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要										

区分	品名 (単位)	分校計				
		2年度 a	3年度 b	令和4年 9月30日 現在	差 b-a	
数量・重さ(ア)						
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	1,230	936	1,230	
	計	0	1,230	936	1,230	
単位数(イ/ア)						
同前年比(%) (b-a)/a×100		0.0				
払高	売払数量	0	1,230	936	1,230	
	売払金額	0	148,550	78,250	148,550	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0
	計	0	1,230	936	1,230	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	
摘要						

職 員 調 (本 校)

(令和4年9月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	早田 公子	総括	□□□	□・□	□□□
2	副校長	廣瀬 かよ子	総括補助	□□□	□・□	□□□
3	教頭	植松 隆洋	総括補助	□□□	□・□	□□□
4	事務長	鈴木 健夫	事務総括	□□□	□・□	□□□
5	教諭	伊海 早苗	小2	□□□	□・□	□□□
6	教諭	村本 さとみ	中3	□□□	□・□	□□□
7	教諭	松本 美智枝	高2	□□□	□・□	□□□
8	教諭	船津 真由美	小1	□□□	□・□	□□□
9	教諭	原田 美栄	小5	□□□	□・□	□□□
10	教諭	伊賀 美紀	高等部	□□□	□・□	□□□
11	教諭	前田 博子	小6	□□□	□・□	□□□
12	教諭	長田 智尋	小3	□□□	□・□	□□□
13	教諭	片山 珠代	小4	□□□	□・□	□□□
14	教諭	末益 美佐	高等部	□□□	□・□	□□□
15	教諭	三井 朋美	小学部	□□□	□・□	□□□
16	教諭	杉村 一	高2	□□□	□・□	□□□
17	教諭	青島 英之	高1	□□□	□・□	□□□
18	教諭	渡邊 條次	小4	□□□	□・□	□□□
19	教諭	渡邊 康子	小学部	□□□	□・□	□□□
20	教諭	浅田 勇	小1	□□□	□・□	□□□
21	教諭	吉川 静恵	高3	□□□	□・□	□□□
22	教諭	市原 智美	高2	□□□	□・□	□□□
23	教諭	森 尚美	小5	□□□	□・□	□□□
24	教諭	杉山 洋祐	高3	□□□	□・□	□□□
25	教諭	松野 幸子	高1	□□□	□・□	□□□
26	教諭	山登 実芳	高1	□□□	□・□	□□□
27	教諭	伊坂 浩美	小4	□□□	□・□	□□□
28	教諭	森田 靖彦	中1	□□□	□・□	□□□
29	教諭	廣 和子	小2	□□□	□・□	□□□
30	教諭	山地 康代	中学部	□□□	□・□	□□□
31	教諭	盛田 美枝子	中2	□□□	□・□	□□□
32	教諭	水野 靖弘	中学部	□□□	□・□	□□□
33	教諭	宇仁 陽子	小3	□□□	□・□	□□□
34	教諭	高橋 裕子	小学部	□□□	□・□	□□□
35	教諭	浦 清栄	高1	□□□	□・□	□□□
36	教諭	神田 光紀	高等部	□□□	□・□	□□□
37	教諭	小見山 文乃	小4	□□□	□・□	□□□
38	教諭	加藤 丈晴	小5	□□□	□・□	□□□
39	教諭	矢谷 一雄	小6	□□□	□・□	□□□
40	教諭	杉澤 ゆみ	小4	□□□	□・□	□□□
41	教諭	木南 満佑子	高2	□□□	□・□	□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
42	教諭	高橋 宏樹	中2	□□□	□・□	□□□
43	教諭	亀田 愛	高1	□□□	□・□	□□□
44	教諭	笹原 雄介	中学部	□□□	□・□	□□□
45	教諭	山本 修平	高1	□□□	□・□	□□□
46	教諭	岩谷 俊宏	高等部	□□□	□・□	□□□
47	教諭	沖出 直美	小1	□□□	□・□	□□□
48	教諭	後藤 麻衣	中1	□□□	□・□	□□□
49	教諭	鈴木 靖代	中2	□□□	□・□	□□□
50	教諭	荻原 隆志	高3	□□□	□・□	□□□
51	教諭	神戸 優輔	小4	□□□	□・□	□□□
52	教諭	古屋 恭平	小6	□□□	□・□	□□□
53	教諭	丸山 未来	小6	□□□	□・□	□□□
54	教諭	宮澤 慎太郎	小2	□□□	□・□	□□□
55	教諭	天野 萌	小1	□□□	□・□	□□□
56	教諭	杉澤 里美	小6	□□□	□・□	□□□
57	教諭	山中 敏裕	中2	□□□	□・□	□□□
58	教諭	杉山 智紀	小3	□□□	□・□	□□□
59	教諭	伊賀上 綾太	中3	□□□	□・□	□□□
60	教諭	佐々木 絵梨子	小5	□□□	□・□	□□□
61	教諭	鈴木 理佳	小1	□□□	□・□	□□□
62	教諭	大木 慶典	小6	□□□	□・□	□□□
63	教諭	榎山 裕	中2	□□□	□・□	□□□
64	教諭	望月 透	高2	□□□	□・□	□□□
65	教諭	勝亦 弘樹	高3	□□□	□・□	□□□
66	教諭	勝田 翔吾	中1	□□□	□・□	□□□
67	教諭	清 圭介	中3	□□□	□・□	□□□
68	教諭	河合 里美	中1	□□□	□・□	□□□
69	教諭	廣瀬 貴達	小3	□□□	□・□	□□□
70	教諭	山口 美樹	小6	□□□	□・□	□□□
71	教諭	岩瀬 祐作	小2	□□□	□・□	□□□
72	教諭	小林 泰代	小2	□□□	□・□	□□□
73	教諭	鶴田 尚平	小1	□□□	□・□	□□□
74	教諭	栗田 有加	中1	□□□	□・□	□□□
75	教諭	小林 彩奈	小4	□□□	□・□	□□□
76	教諭	荒川 朋之	小5	□□□	□・□	□□□
77	教諭	カ- 智見	中2	□□□	□・□	□□□
78	教諭	植田 なみほ	高2	□□□	□・□	□□□
79	教諭	加藤 貴愛	小2	□□□	□・□	□□□
80	教諭	齊藤 司	中1	□□□	□・□	□□□
81	教諭	正木 希実	小2	□□□	□・□	□□□
82	教諭	長田 美雲	小1	□□□	□・□	□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
83	教諭	磯部 はずき	小1	□□□	□・□	□□□
84	教諭	藤本 萌	小6	□□□	□・□	□□□
85	教諭	宇根 桃子	中1	□□□	□・□	□□□
86	教諭	渡邊 真輝	高2	□□□	□・□	□□□
87	教諭	保科 明日香	小4	□□□	□・□	□□□
88	養護教諭	見須 愛美	養護	□□□	□・□	□□□
89	養護教諭	川崎 智尋	養護	□□□	□・□	□□□
90	栄養教諭	石井 紀子	給食	□□□	□・□	□□□
91	主査	山本 紘孝	会計	□□□	□・□	□□□
92	主査	小川 友馬	会計	□□□	□・□	□□□
93	主事	竹下 恵	会計	□□□	□・□	□□□
平均年数					1年3月	

付記

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	由水 千秋	小6	□□□	□・□	□□□
2	教諭(臨)	吉田 憲	小5	□□□	□・□	□□□
3	教諭(臨)	額田 温美	高3	□□□	□・□	□□□
4	教諭(臨)	後藤 武正	高2	□□□	□・□	□□□
5	教諭(臨)	廣瀬 悦子	中1	□□□	□・□	□□□
6	教諭(臨)	三田 仁美	中2	□□□	□・□	□□□
7	教諭(臨)	古谷 帆波	高1	□□□	□・□	□□□
8	非常勤講師(初級)	田場 由紀	医療的ケア	□□□	□・□	□□□
9	実習支援指導員	横山 みどり	実習支援	□□□	□・□	□□□
10	非常勤労働員	瀬戸 和代	用務	□□□	□・□	□□□
11	非常勤労働員	三保 信一郎	用務	□□□	□・□	□□□
12	非常勤労働員	竹ノ下 直子	スクールバス運転	□□□	□・□	□□□
13	非常勤労働員 就労促進専門員	太田 珠美	スクールバス運転 就労支援	□□□	□・□	□□□
14	非常勤労働員	中村 末子	スクールバス運転	□□□	□・□	□□□
15	非常勤労働員	藍澤 カオル	スクールバス運転 コロナスタッフ	□□□	□・□	□□□
16	非常勤労働員	山本 道子	スクールバス運転	□□□	□・□	□□□
17	非常勤労働員	藤澤 まり子	スクールバス運転	□□□	□・□	□□□
18	非常勤労働員	飯塚 八重子	スクールバス運転	□□□	□・□	□□□
19	非常勤労働員	成田 真弓	コロナスタッフ	□□□	□・□	□□□
20	非常勤労働員	川井 俊幸	コロナスタッフ	□□□	□・□	□□□
21	非常勤嘱託員	稗田 舜	実習支援	□□□	□・□	□□□
22	非常勤講師	河合 孝彦	国語	□□□	□・□	□□□
23	健康管理医 学校医	渡邊 誠司	健康管理医 内科	□□□	□・□	□□□
24	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□	□・□	□□□
25	学校医	佐藤 隆夫	耳鼻咽喉科	□□□	□・□	□□□
26	学校医	杉本 秀樹	歯科	□□□	□・□	□□□
27	薬剤師	秋山 和久	衛生	□□□	□・□	□□□
平均年数					1年0月	

職 員 調 (伊豆下田分校)

(令和4年9月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	山本 健児	総括補助	□□□	□・□	□□□
2	教諭	長崎 智子	小学部	□□□	□・□	□□□
3	教諭	山田 健司	中学部	□□□	□・□	□□□
4	教諭	鈴木 雅枝	小学部	□□□	□・□	□□□
5	教諭	鈴木 理史	中学部	□□□	□・□	□□□
6	教諭	入江 ひとみ	中学部	□□□	□・□	□□□
7	教諭	滝井 弓映	小学部	□□□	□・□	□□□
8	教諭	村山 理恵	小学部	□□□	□・□	□□□
9	教諭	高木 晶	小1	□□□	□・□	□□□
10	教諭	山田 弥江	小学部	□□□	□・□	□□□
11	教諭	栗田 智恵	小2	□□□	□・□	□□□
12	教諭	齋藤 麻実	小学部	□□□	□・□	□□□
13	教諭	近藤 一葉	中3	□□□	□・□	□□□
14	教諭	秋山 由貴	小3	□□□	□・□	□□□
15	教諭	野田 芳宏	小4	□□□	□・□	□□□
16	教諭	小林 奈美佳		□□□	□・□	□□□
17	教諭	八木 竜馬	中3	□□□	□・□	□□□
18	主査	鈴木 久予	事務	□□□	□・□	□□□
				平均年数	1年3月	

臨時の任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	土屋 由美子	小6	□□□	□・□	□□□
2	教諭(任)	佐々木 千恵	小6	□□□	□・□	□□□
3	養護教諭(臨)	出野 花菜	養護	□□□	□・□	□□□
4	会計年度任用職員	川崎 由佳	医療的ケア	□□□	□・□	□□□
5	会計年度任用職員	奥村 千江子	用務	□□□	□・□	□□□
6	会計年度任用職員	深澤 晶子	スクールバス添乗員	□□□	□・□	□□□
7	学校医	河井 榮	内科	□□□	□・□	□□□
8	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□	□・□	□□□
9	学校医	大石 延正	耳鼻咽喉科	□□□	□・□	□□□
10	学校医	土屋 正彦	歯科	□□□	□・□	□□□
11	学校薬剤師	水越 康有	衛生	□□□	□・□	□□□
12	健康管理医	河井 榮		□□□	□・□	□□□
				平均年数	1年5月	

職 員 調 (伊豆松崎分校)

(令和4年9月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	副校長	佐々木 雅則		□□□	□・□	□□□
2	教諭	福本 宏	高2	□□□	□・□	□□□
3	教諭	高橋 房一	高3	□□□	□・□	□□□
4	教諭	八木 治郎	高等部	□□□	□・□	□□□
5	教諭	山田 直美	高1	□□□	□・□	□□□
6	教諭	藤井 あや子	高等部	□□□	□・□	□□□
7	教諭	高橋 康子	高等部	□□□	□・□	□□□
8	教諭	蛭海 健太郎	高等部	□□□	□・□	□□□
9	教諭	長橋 加奈	高等部	□□□	□・□	□□□
10	主任	近藤 夏梨	事務	□□□	□・□	□□□
				平均年数	3年0月	

付記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	養護教諭(任)	鈴木 三恵	養護	□□□	□・□	□□□
2	非常勤労働員	山本 浩美	用務	□□□	□・□	□□□
3	健康管理医	池田 正晃	健康管理医	□□□	□・□	□□□
4	学校医	中江 順	内科	□□□	□・□	□□□
5	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□	□・□	□□□
6	学校医	大石 延正	耳鼻咽喉科	□□□	□・□	□□□
7	学校医	中江 希望	歯科	□□□	□・□	□□□
8	学校薬剤師	高橋 浩	衛生	□□□	□・□	□□□
				平均年数		

職員の年齢調

(令和4年9月30日現在)

年 齢	人 員				摘 要
	本 校	伊豆下田 分校	伊豆松崎 分校	合 計	
20 歳未満	0 人	0 人	0 人	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	13	1	0	14	
30 歳以上 40 歳未満	31	5	2	38	
40 歳以上 50 歳未満	21	8	1	30	
50 歳以上 56 歳未満	15	2	3	20	
56 歳以上 61 歳未満	12	2	4	18	
61 歳以上	1	0	0	1	
計	93	18	10	121	平均年齢 42.8歳

健康管理

【本校】

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受信者数 86 人
	職員数 86 人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	15 (15)
D 2		要経過観察	39 (39)
D 3		医 療 不 要	39 (39)
区 分 者 計			93 (93)
未区分者数			0
合 計			93

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア産休・育休 0 人
 イ新規採用 0 人
 ウ自己都合による未受診 0 人
 エそ の 他
 特別休暇 0 人
 他県派遣等 0 人

健康管理

【伊豆下田分校】

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 17人
	職員数 17人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行っても症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	3 (3)
D 2		要経過観察	13 (13)
D 3		医 療 不 要	2 (2)
区 分 者 計			18 (18)
未区分者数			
合 計			18

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況
通常勤務
時間外勤務や遠方への出張を制限

(2) 未区分の理由
ア産休・育休 人
イ新規採用 人
ウ自己都合による未受診 人
エその他
特別休暇 人
他県派遣等 人

健康管理

【伊豆松崎分校】

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 12人
	職員数 12人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0
B 2		要経過観察	0
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0
C 2		要経過観察	0
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	5 (5)
D 2		要経過観察	2 (2)
D 3		医 療 不 要	3 (3)
区 分 者 計			10 (10)
未区分者数			0
合 計			10

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況
通常勤務
時間外勤務や遠方への出張を制限

(2) 未区分の理由

ア産休・育休 0人
イ新規採用 0人
ウ自己都合による未受診 0人
エその他
特別休暇 0人
他県派遣等 0人